

令和3年度二本松市教育委員会指導委員会研究資料

夢中になって学ぶ子どもの育成

～子どもの学びを実現する単元構成からのコーディネート工夫～



二本松市教育委員会

目 次

はじめに

I	今年度の研究推進	P. 1
II	本資料の見方	P. 2
III	授業改善の実際	P. 3
IV	研究のまとめ	P. 4 1

はじめに

新学習指導要領が今年度より中学校において全面実施となり、各幼稚園・小学校・中学校においては、趣旨を踏まえた教育活動が展開されております。今回の改訂においては、幼稚園から高等学校までを見据えて、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の3つの柱に整理し、子どもの連続した育ちを捉え保障することが求められています。子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするため、学習の質を一層高める授業改善、すなわち「主体的・対話的で深い学び」の取組を一層活性化していく必要があります。

一方、学習指導要領の全面実施が進む中、一昨年から発生した新型コロナウイルス感染症により、教育活動に様々な制約が生じました。各学校においては、子どもたちの安全・安心を確保する観点から、地域や各学校の感染状況に応じて臨時休業を余儀なくされたり、感染リスクの高い学習活動の実施について見合わせたりするなど、様々な配慮をしながら学びの保障に向けて努力を重ねてきました。しかしながら、授業時数の確保や子どもたちの関わり方への配慮等から、授業が教え込みになりがちとなり、本来求められる子どもの主体性を育む授業の展開が不十分であったのではないかという課題も生じてきました。

そこで、令和3年度の指導委員会においては、子どもたちの資質・能力を育む授業の改善を目指し、指導委員の授業力向上を図る研究を推進して参りました。本市の目指す子どもの姿「夢中になって学ぶ子どもの育成」を研究主題とし、単元構成の工夫と授業における深い学びのための教師のコーディネート工夫に視点をあて、教科毎に研究授業を実施し、授業の課題をどのように改善していけば研究主題に迫ることができるか協議を重ねてきました。

本冊子は、指導委員の授業の過程を見取り、どのように教師が働きかければ子どもたちが学びに没頭するか、より質の高い授業を求めて改善した足跡を収録しています。私たちは子どもの姿から授業の在り方を学び、日常的に授業の改善に取り組むことが大切です。本冊子を各自の授業改善に活用し、本市の目指す子どもの姿「夢中になって学ぶ子ども」の育成に向けてより質の高い授業の実践に取り組んでいただければ幸いです。

結びに、指導委員の皆様のご真摯な取組に敬意を表しますとともに、各学校の校長先生・園長先生のご理解とご協力に改めて感謝を申し上げます。

令和4年3月

二本松市教育委員会教育長 丹野 学

I 今年度の研究推進

研究主題

夢中になって学ぶ子どもの育成

～子どもの学びを実現する単元構成からのコーディネート工夫～

今年度、指導委員会は、二本松市教育委員会の目指す子ども像「夢中になって学ぶ子ども」の育成に向けて研究を推進してきました。昨年度の学校訪問や各校の現職教育、指導委員自身の授業等から明らかになった課題をもとに、目指す子どもの姿を話し合い、その具現に向けた授業のあり方を検討しました。その結果、授業改善の視点を次の2点に焦点化しました。

○単元構成の工夫

○授業における深い学びのための教師のコーディネート工夫

次に、この授業改善の視点に応じた指導案の形式を工夫し、「夢中になって学ぶ子ども」の育成に向けて授業実践を重ねてきました。

<夢中になって学ぶ姿とは？～目指す子どものイメージ～>

- 興味関心をもち課題に気付く。
- 自分の考えを表現する。
- 試行錯誤し、追究する過程を楽しむ。
- 他者と協力して学び合う。
- 間違いや失敗を恐れない。
- 次の課題を求め取り組む。
- 学びを実生活に生かす。
- など、学びに没頭している姿

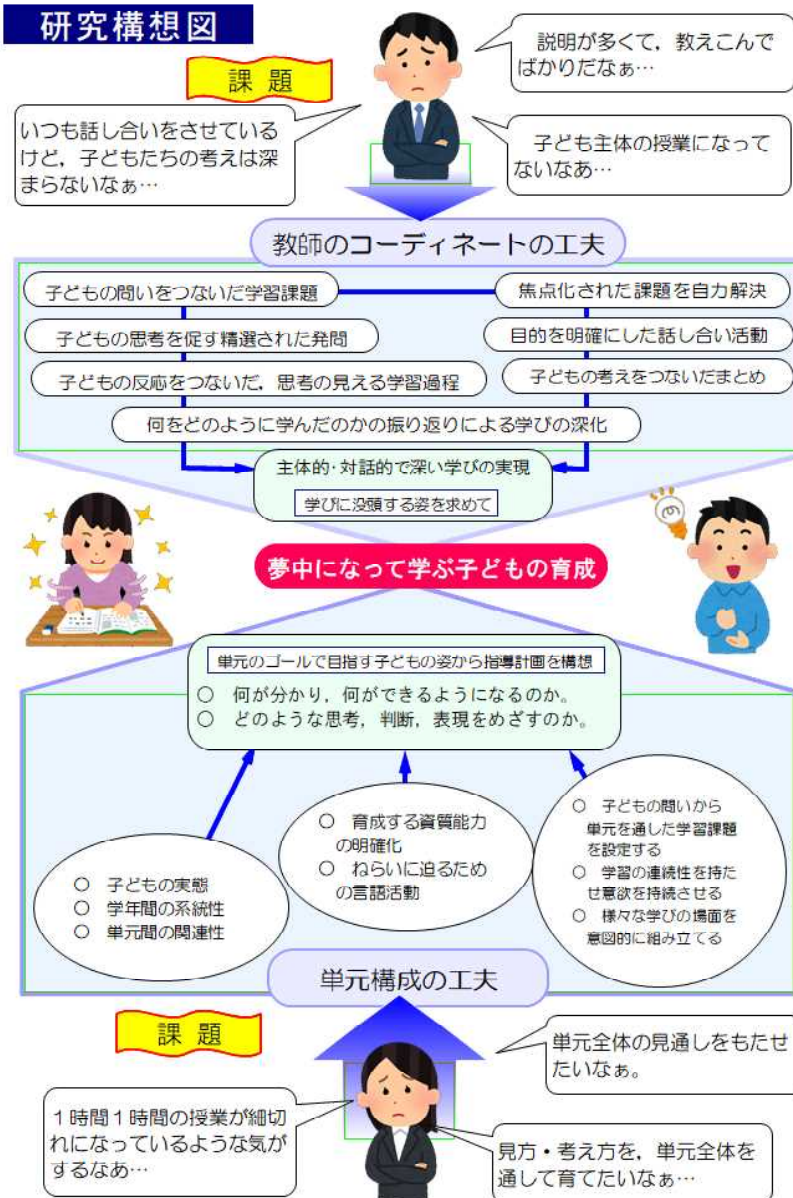
<授業改善の視点と内容>

1 単元構成の工夫

- 単元や本時のゴール・育てたい姿を明確にする。
- 単元における本時の位置付けを明確にする。
- 生活や他教科等との関連を図るなど、魅力ある教材を開発する。

2 教師のコーディネート工夫

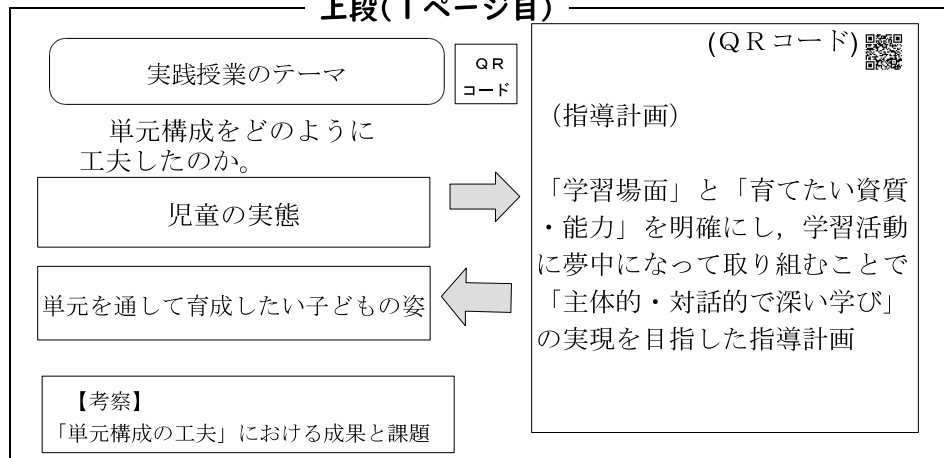
- 気付きを促し多様な思考を生む発問を工夫する。
- 思考ツールやICT、座席表等を活用して子どもの考えを可視化する。
- 聞き返したり、再現させたり根拠を求めたりしながら、子どもの考えをつなぐ。



II 本資料の見方

今年度、指導委員会が掲げた2つの授業改善の視点ごとに、どのように実践を行ったのか、また、それを通じて明らかになった成果や課題を整理しました。1つの実践を見開き2ページで構成し、1ページ目には「単元構成の工夫」、2ページ目には「教師のコーディネート」についてまとめてあります。

上段(1ページ目)

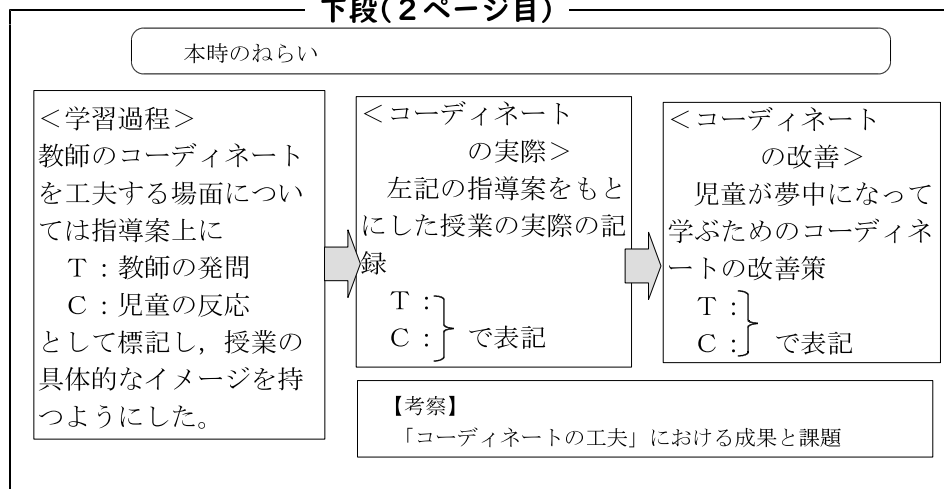


1ページ目は「単元構成の工夫」です。教科の特質、単元の系統性、教材解釈を大切に、単元全体と単位時間の関係性や位置づけを指導者がきちんと押さえるための指導計画を工夫しました。

単位時間ごとに育成する資質・能力を明記するとともに、単元全体の中で、「見通す」「振り返る」「対話する」「考える」「教わる」等各場面の位置づけを明確にして、指導計画を吟味しました。「児童の実態」と「単元をとおして育成したい子どもの姿」を比較しながら、どのような学びの道筋をたどれば、児童が夢中になって主体的に学び、ねらいとする資質・能力を身に付けることができるのかを検討して作成した単元指導計画です。その計画にそって指導した結果、夢中になって学ぶ子どもの姿が見られたのか、ねらいとした資質・能力が身に付いたのかについて考察をしています。

なお、右上のQRコードからは、Web上に掲載した授業実践の記録や授業に関する参考資料をご覧いただくことができます。

下段(2ページ目)



2ページ目は教師の「コーディネートの工夫」です。昨年度の学校訪問の反省の1つに「教師の適切な問い返しや追質問、他の児童生徒につないだりすることで子どもたちの考えが深まっていく全体での学び合いについて改善していく必要がある。」ことが示されました。

それを受けて、指導委員会では、子どもの問いをつないだ学習課題を作り、子どもの思考を促す発問をもとに、思考の見える学習過程を工夫することにしました。工夫した学習過程をもとに授業を実践し、実際に子どもたちの学びをコーディネートすることが出来たのかを検証しました。その結果をもとに、教師のコーディネートの改善策を提案しています。

(委員長 服部 英昭)

III 授業改善の実際

第2学年 国語科「そうどうしたことを、音読げきであらわそう「お手紙」「C読むこと」

劇化による対話を通して人物の様子を想像し、表現する力を育てる

安達太良小学校 西屋 純

I 単元構成の工夫

本単元は、『お手紙』と「この本、読もう」で構成され、「音読げきをする」という言語活動になっている。音読劇の読み方や動きを工夫し、その根拠となる言葉について考えることで、人物の行動と様子を詳しく読み、気持ちを想像することにつなげることができる。そこで、本単元では、音読劇をよりよくするために、登場人物の様子を具体的に想像することを強く意識付けながら学習を進めることで、児童の言葉の力や想像力の向上を図りたい。

児童の実態

少人数学級ということもあり、仲はよい一方で、自分の見方・考え方を深めるために友達の多様な発想にふれるという経験が乏しく、授業では意見が収束的思考となり、新たな考えの積み上げがあまり見られない。国語科の文学的文章の学習では、登場人物のしたことや、言ったことをとらえる力についてはついてきている一方で、その行動の様子を想像する力は個人差が大きい。

単元を通して育成したい子どもの姿

文学的文章を、文章中の表現をもとに読み、想像したことを表現する意欲や読書意欲を高める姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 単元のゴールの音読劇の発表を学校行事（学習発表会）と合わせることで、本単元を学ぶ必然性や意欲が高まった。
- 単元の学び方の多くを音読や劇化に焦点化したことで、登場人物の行動について想像を広げる力が高まった。
- 本教材の学習をもとに読書意欲をより高めるために、単元の最後に扱った「この本、読もう」を単元の最初に扱い、並行読書に取り組みさせる方法も工夫したい。

学習計画（総時数 14 時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す	単元を見通すことで、音読劇をすることやそのために読み取ることについて期待を持つ。	単元の目標を知り、学習の見通しをもって音読劇に取り組もうとしている。(主)
2・3	習得する	「お手紙」を読み、場面分けをしたり、登場人物の行動を読み取ったりしている。	「場所」をもとに場面分けできる。(思) 登場人物の行動を読み取れる。(思)
4 8	考える 習得する	各場面でのかえるくんやがまくんの行動を、具体的に想像することを通して、登場人物になりきって音読している。	語のまとまりに注意し、音読できる。(知) 登場人物の様子や気持ちを、挿絵や本文の言葉を基に想像することができる。(思)
9 (本時)	対話する	二人が手紙を待っているときの気持ちについて考えたり、話し合ったりする。	二人が手紙を待っているときの気持ちについて想像を広げることができる。(思)
10	考える	音読劇で表現したいところを選び、読み方や動きを書き込む。	これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に生かそうとしている。(主)
11 13	対話する 習得する	グループごとに練習をし、感想を伝える。 友達の助言や読み方から、自分の音読のしかたを直し、練習する。	登場人物の行動や、表情、口調、様子などを想像して表現することができる。(思)
14	振り返る	音読劇の発表（学校行事）及び単元全体の学習を振り返る。「この本、読もう」の同じシリーズ本を読み、読書意欲を高める。	これまでの学習を生かし、同じシリーズの本を進んで読もうとしている。(主)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 教科書23ページを読み、手紙が届くまでの行動や気持ちについて考え、話し合うことを通して、二人が手紙を待っているときの気持ちについて想像を広げることができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。 (1) これまでの学習をふり返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。</p> <p>ふたりは、どのように手紙をまっていたらうか</p> <p>(3) 課題解決の見通しをもつ。</p>	<p>2 手紙を待つ様子をペアで劇化しながら考える。 T: これまでの様子から、手紙が来るまで、どのように待っていたか想像して劇をしてみよう。 C: 先生、どうやるんですか。どこからやるのですか。</p> <p>すぐにペアで話し合う活動に入れなかったため、イメージを広げるやりとりに時間を要した。</p> <p>T: ふたりは幸せな気持ちで座って何を言ったのだろうね。 C: 「お手紙くるのが楽しみだな」って言ってるかも。 C: 「お手紙書いてくれてありがとう」って言っていると思う。</p>	<p>2 吹き出しやキーワードにより思考の視覚化や焦点化を図り、劇化するイメージを持たせる。 T: 教科書P23の1行と2行の間にくる場面だよ。二人の会話「言葉」と二人の様子「姿」を考えてごらん。 T: まず、自分の考えを吹き出しにしっかり書いてみよう。</p> <p>会話を吹き出し入りのワークシートに書かせ、それをもとにペアで劇化することでイメージを持ちやすくする。</p>
課題解決	<p>2 手紙を待つ様子をペアで劇化しながら考える。 C: (がま役) 手紙くるの楽しみだなあ。 C: (かえる役) 喜んでくれると嬉しいな。</p> <p>3 全体で話し合う。</p> <p>C: 「いい手紙だ」と言っているのだから、かえるくんの手紙が来るの楽しみだなあと言っていると思った。 C: 挿絵で肩を組んでいるくらい仲がいいから、そのあとも肩を組みながら待っていたと思う。 C: 「かたつむりくん、おそいね。でもゆっくりまとうね」と言ってると思う。がまくんは、かえるくんから手紙のことを聞いてから幸せになっているから幸せに待っていると思う。 T: 前や次の場面、挿絵から想像が広がりますね。</p>	<p>3 全体で話し合う。 T: 何組かに実際にやってみよう。 C: (手をつないで) 「お手紙を書いてくれてありがとう、次は僕が書くね」 T: どうしてそう思ったのかな。</p> <p>教師と児童のやりとりが多かった。</p> <p>C: 親友と思っているから、手をつないで待っていそうと思いました。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>振り返りの感想を読むことにとどまった。</p>	<p>3 全体で話し合う。 T: ○○さんが言ったのはどういうことですか。 T: ○○さん、今の考えをどう思いますか。</p> <p>再生を促す問いかけや他の児童の考えのよさや疑問点を問うことで、さらに考えを広げたり深めたりする。</p> <p>4 本時のまとめをする。 T: 初めの吹き出しに書いた考えと、ペアで劇にしたときの考えを比べて変わったことはありませんか。 C: ○○さんの発表から幸せながまくんを見て、かえるくんも幸せだったことが、分かりました。</p> <p>授業の最後に、本時の学習で新たに気付いたことや考えが変わったことを問い、何を学んだのかを確認させる。</p>
振り返り	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>幸せな気持ちでいろいろな話をしたりしながらまっていたかもしれない。</p>	<p>「コーディネート」における ○成果と●課題 ○ 登場人物の様子を劇化し、多様な考えを発表し合うことで、想像を広げる姿が見られた。 ● 吹き出しや「言葉・姿」という話し合う観点を示したり、色分けして板書したりするなど、児童の思考を促すよう視覚化や焦点化を図るとともに、考えの根拠となる発言をもとに他の児童をつなぐ働きかけを行うと思考が深まると思われる。</p>	

第2学年 国語科「6 いにしへの心にふれる 仁和寺にある法師—「徒然草」から」C 読むこと」
古典作品の読解を通して人物像を想像し、作品に親しむ
小浜中学校 佐藤 深鈴

I 単元の構成の工夫

古典作品には、言葉の響きの美しさや古語の現代語と異なる意味の面白さがある。中学校では暗唱にとどまらず、歴史的な背景を知り、先人の考えを読み解き、現代を生きる自分たちと比較しながら読むことが求められる。そこで、本単元では、既習「枕草子」ので自分の生活をもとに表現した「オリジナル枕草子」の内容を交流した経験を生かし、最後に「オリジナル徒然草」を書く活動を設定した。学習の目的を明確に意識させることで「徒然草」の他の章段を併せて読むことの必然性を持たせた。さらに古典作品のおもしろさや登場人物、ひいては作者の人物像を多面的に捉えさせる学習を通して、自分が感じた作品の魅力や新たな発見を友達と伝え合うことへの意欲を高めたい。

生徒の実態

語彙が豊かであるため、「話す」活動や「書く」活動を好む生徒が多い学級である。現在の課題は、自分が満足する伝え方ではなく、相手に納得してもらおうように伝える語彙を身に付けることであり、この課題は生徒と共有している。また、学力差が大きく、想像力の個人差も大きい。

単元を通して育成したい子どもの姿

古典作品を読解し気づいたことや疑問などを伝え合うことにより、複数の資料から多面的に物事を捉えようとする姿。

「単元構想の工夫」における ○成果と●課題


- 単元のゴールが明確化されていることで、毎時間の言語活動の目的が明瞭になり、古典作品を学ぶ必要性が高まった。
- 人物像をまとめるワークシートの形式について、中心にまとめを据え周囲に吹き出しを付けたが、情報の数や内容が固定化されてしまったので、吹き出しを取り払い、複数の資料からフレキシブルに情報をまとめられる形式など、情報のまとめ方を工夫する必要があった。

学習計画（総時数4時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す 習得する	現代語訳や注釈をもとに古文を読み「仁和寺にある法師」の行動について兼好法師がどのように考えたかを読み取る。	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、作品に表れた、登場人物や作者のものの見方や考え方を説明することができる。（主）
2	考える 対話する	「徒然草」の他の段を読み、登場人物の言動の意味などについて考え、作者の人物像を書く。	複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。（思・表）
3 (本時)	考える 対話する	前時に読解した資料を持ち寄って情報交換を行い、より適した表現で作者の人物像を箇条書きで書く。	複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、作者の言葉に込められた意味などについて考えたりすることで、作者の人物像を捉えることができる。（思・表）
4	振り返る	文章構成を真似た「オリジナル徒然草」を書くことで、「徒然草」の特徴を体感する。	古典作品には、さまざまな立場や考え方が描かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（知・技）

II コーディネートの工夫

＜本時のねらい＞ エピソードに添えられた作者の考えを比較して読むことで、作者の人物像を多面的に捉えて自分の言葉で説明することができる。

	学習活動・内容（T主な発問・C生徒の反応）	＜コーディネートの実際＞	＜コーディネートの改善＞
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1) 自分のエンジョイシートの感想欄を班で共有する。</p> <p>(2) 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">兼好法師は、どのような人物と言えるだろうか。</div>	<p>2 資料の分析をした結果を持ち寄り、情報交換する。</p> <p>T：班で自分の分析を紹介し合ってみましょう。</p> <p>C：人物像について話せばいいの？</p> <p>C：全部(の分析について)話しちゃっていいの？</p> <p>C：一つ一つについてしゃべっていきたくないかな？</p> 	<p>2 分析した結果について、人物像の共通点や相違点という観点を与えて情報交換させる。</p> <p>T：どんな人物だといえるか共有しましょう。共通点と相違点を挙げ、お互いに「なぜ？」と問い返して根拠をはっきりさせましょう。</p> <p>C：「優しい」と思った人はいる？いない？じゃあ、なんて書いた？</p>
課題解決	<p>2 資料の分析をした結果を持ち寄り、情報交換する。</p> <p>C：「『少しのことにも……』と言っている。しっかりと目的を達成するには、現状に合わせて人に頼ることが必要だと考えているのではないか。」</p> <p>C：「同じ話からだけど、同情していないように見えて、気の毒に思っているように感じました。気の毒な人を減らすために書いたのかもよ。」</p> <p>3 人物像を書く。</p> <p>4 読み合い、アドバイスし合う。</p>	<p>複数の資料について分析したが、どの資料について話すのか、人物像そのものについて話した方が良いのか、班での方向性を決めるのに時間がかかった。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>T：どのような人物だと考えたのか教えてください。</p> <p>C：優しいと思います。</p> <p>T：なぜですか。</p> <p>C：アドバイスのような内容が多いからです。</p> <p>T：なるほど！考えが似ている人はいますか。</p>	<p>話し合う観点を焦点化して話し合わせることで時間短縮を図り、この後の個人で人物像を書く時間と、振り返りの時間を十分に確保する。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>T：T：どのような人物だと考えたのか教えてください。</p> <p>C：優しいと思いました。</p> <p>T：「優しい」のですか？</p> <p>T：同じ言葉を使ってまとめた人はいますか。</p> <p>T：〇〇さんが言ったことをもう一度言えますか。</p>
振り返り	<p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(例) 兼好法師は、より良い結果を導くにはどうすれば良かったのか、この作品を読んだ人に気付いたことを教えてあげたい親切な人物である。</div> <p>6 エンジョイシート(ふり返しシート)を記入する。</p>	<p>時間がすれ込んでしまったため、タブレット端末で黒板に投影しながら紹介することになった。</p>	<p>紹介しながら問い返し、説明や再生をさせることで、友人のまとめに興味を持たせ、根拠を明確にしているか、適切な表現を使っているかという観点で、学習課題に対する相互評価をすることが可能になる。キーワードのみ、板書していく。</p>

「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題

○ 電子黒板とタブレット端末を利用して、黒板内にまとめを投影するスペースを作っておいたため、短時間で複数名の生徒のまとめを紹介することができた。

● 下位生徒への支援が不十分になった場面があったことと話し合いに時間を要したことから、具体的な観点を示してから中心となる言語活動を行い、全員が作者の人物像を自分の言葉で書くことができるようにしたい。

第6学年 社会科「江戸幕府と政治の安定」

政策の意図や影響を話し合うことを通して、多角的に考える力を育てる
油井小学校 小野 真樹

I 単元構成の工夫

本小単元のねらいは、江戸幕府による様々な政策について調べることを通して、武士による政治が安定したことを理解できるようにすることである。文化財や地図、年表など様々な資料から、幕府の政策の意図について考えることができる単元である。その政策が与えた影響を幕府や大名、民衆など、いろいろな立場から考える活動を取り入れることで、政策について多角的に考え、政策の効果や善し悪しを判断する力を身に付けさせたい。

児童の実態

本学級には、新たな社会的事象について知ることに関心をもっている児童が多く、歴史の学習が「好き」「楽しい」と感じている児童が多い。調べ学習では、簡単な文章資料から必要な情報を見つけることはできるが、絵や写真資料、地図、年表等の資料の読み取りは苦手としている。また、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめたり、表現したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。

単元を通して育成したい子どもの姿

絵や写真資料、地図、年表などの様々な資料から必要な情報を読み取り、江戸幕府の政策の意図や影響についていろいろな立場から考えることで、多角的に考え判断しようとする姿。

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 「江戸幕府が250年以上も続いたのはなぜか」という単元を貫く課題を設定することで、幕府の政策の意図や影響について考えるという視点をもつことができた。
- 毎時間の終末や単元末にいろいろな立場から考えたり、判断したりする場を設定したが、指導事項や資料の精選が十分でなく、時間を取れないことが多かった。

学習計画（総時数6時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す	江戸幕府が250年以上も続いたことに疑問をもち予想を出し合う。	疑問や予想を出し合い、課題解決に向けて取り組もうとしている。 (主)(思)
2	習得する	武家諸法度や江戸城の図などから徳川家光がどのようにして幕府の権力を確立したのかを調べる。	必要な情報を読み取り、江戸幕府による大名統制の仕組みについて理解することができる。 (知・技)
3	習得する 考える	参勤交代などの資料から幕府がどのように大名を統制していったかを調べ、政策の影響について考える。	必要な情報を読み取り、参勤交代の目的と大名への影響について理解することができる。 (技)(思)
4	習得する 考える	身分制やと人々の暮らしについて調べ、幕府がどのように人々を治めたか考える。	必要な情報を読み取り、江戸時代の身分制度と人々の暮らしについて調べ、幕府の取り組みの目的について考えることができる。(技)(思)
5 (本時)	考える 対話する	キリスト教の禁止や鎖国について調べ、その影響について話し合う。	キリスト教禁止の意味や鎖国のもとの外国との関係について調べ、その影響について話し合うことができる。 (思・表)
6	振り返る	江戸幕府の政治について様々な人々の立場に立って表現する。	江戸幕府の政治と様々な立場の人々の思いを関連付けて表現することができる。(思・表)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> キリスト教の禁止や鎖国について、背景にあった出来事や世の中への影響などについて調べたり話し合ったりすることにより、江戸幕府の政策の意図を考えることができる。

	学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	<p>1 本時の学習課題をとらえる。 (1) 日本人町の再現図や日本人町の分布図から江戸時代初期は外国との交流が盛んだったことを知る。 (2) 「鎖国令」から、外国との交流の様子が大きく変化したことを確かめ、本時のめあてをつかむ。</p> <p>江戸幕府が鎖国をしたのはなぜだろう？</p>	<p>2 江戸幕府が行ったことを調べ、なぜ鎖国したか考える。 教科書や資料集を使って調べたため、資料が多く、じっくり読み取る時間が少なかった。</p> <p>3 江戸幕府が鎖国をした理由を全体で話し合い、まとめる。 T：なぜ鎖国をしたのでしょうか？ C：キリスト教徒が幕府の命令に従わなくなることを心配して、キリスト教を禁止したかった。 T：どうしてキリスト教を禁止したかったの？ C：幕府の命令に従わなくなるから。 調べたことを一つ一つ確認する発問が多く、一問一答になってしまった。</p> <p>T：キリスト教を信じると幕府の言うことを聞かなくなる？ C：幕府より神の教えを大事にするから。 T：幕府は「絵踏み」をしてまでキリスト教を禁止しました。(絵踏みの資料を提示) T：このような大きな一揆が起きたのです。(島原・天草一揆の資料を提示)</p> <p>「絵踏み」や「島原・天草一揆」などの事実の説明が中心になった。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、鎖国について自分の考えを書く。 キリスト教の禁止についてまとめるにとどまり、自分の考えを書く時間がとれなかった。</p>	<p>2 資料を「絵踏み」「島原・天草一揆」「出島」の3つにしぼって提示し、なぜ鎖国したかグループで考える。 T：「鎖国」は、この3つの資料と関係があります。 C：キリシタンが一揆を起こしたんだね。 資料を精選し、調べることを明確にする。</p> <p>3 グループごとの考察をつなぎながら、江戸幕府が鎖国をした理由を全体で話し合い、まとめる。 T：幕府が鎖国をしたのはなぜでしょう？ C：幕府は「絵踏み」を行っていたので、キリスト教を禁止したかったのだと思います。 C：この頃、「島原・天草一揆」が起こり、幕府は、キリスト教が広がると世の中が乱れると考えたのだと思います。 C：だから、キリスト教を広めないオランダと中国に貿易することを認めました。 C：「出島」を作ることで幕府が貿易を独り占めしたかったのだと思います。 事実の説明を少なくし、事実からどう考えたかを重視してグループごとの考えを発表させる。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、鎖国について自分の考えを書く。 T：鎖国してよかったですでしょうか？ C：鎖国によって幕府が長続きし、世の中が安定した。 C：キリスト教信者は厳しく取り締まられてかわいそう。</p>
課題解決	<p>2 江戸幕府が行ったことを調べ、なぜ鎖国したか考える。 C：キリスト教が関係しているのかな。 C：出島を作っているね。</p> <p>3 江戸幕府が鎖国をした理由を全体で話し合い、まとめる。 T：江戸幕府が鎖国をしたのはなぜでしょう？ C：キリスト教を禁止するために鎖国した。 T：どうしてキリスト教を禁止したかったのですか？ C：キリスト教の信者が増えていった。 C：キリスト教信者が一揆を起こした。 T：オランダや中国とは貿易しているけど…。 C：キリスト教を広めないから。 T：鎖国によって世の中はようになったかな？ C：キリスト教が広まらなくなった。 C：幕府が貿易を独占した。 C：幕府が長続きすることにつながった。</p> <p>江戸幕府は、キリスト教を禁止し、貿易を独占することで、政治を安定させるために鎖国をした。</p>	<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題 ○ 一つ一つ問い返すことによりスモールステップで事実について確認することができた。 ● 資料の読み取りや正しい事実を捉えることに時間をとられ、事実をもとに考えをまとめたり深めたりすることが不十分だった。</p>	
振り返り	<p>4 本時の学習を振り返り、鎖国について自分の考えを書く。 C：鎖国してよかった。理由は・・・。</p>		

第6学年 社会科「今に伝わる室町文化」

動画作りの活動を通して、歴史をより身近に感じることができる授業

東和小学校 内谷 昌史

I 単元構成の工夫

本単元では室町時代の人物の動きや代表的な建築物等に着眼して文化の特色を考えたり、表現したりする活動を通して、我が国の伝統や文化と今日の私たちの生活との関わりを考えようとする態度を養うことを主たる目的としている。他教科で学習した生け花体験や、水墨画作成、本校の特徴でもある和室の観察を通して、室町文化が自分たちの生活の身近にあることを理解し、主体的に歴史を調べ、表現しようとする力を育てるため、知識の習得と表現力の育成のバランスが取れるよう工夫した。

児童の実態

学力の個人差は大きいですが、学習課題に意欲的に取り組むことができる。課題解決につながる話し合いや調べ活動は苦手意識が強く、表現力にやや課題が残る。歴史学習に魅力を感じているが、その必要性や有用性を感じる機会が少なく、社会科の学習を「覚える」教科として捉えている児童が多い。自分たちの生活が歴史の上に存在しているという歴史の存在意義を考える児童は少ない。

単元を通して育成したい子どもの姿

歴史への興味・関心を高め、楽しく歴史を学びながら、主体的に表現・発信する活動の中で、身近にある歴史に触れたり、体験したりして、歴史は自分の生活の一部であり、歴史はストーリーではなくルーツであると考えられるよう工夫し、歴史を学ぶ意義を捉えさせる。

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題


- 歴史学習全般に言えることだが、45分間で取り扱う知識は大変量が多い。そこで指導内容を精選して、一斉指導後に児童が関心の高い題材を選んで調査活動ができるようにした。今回は動画を作成することによって、主体的に調査活動をするようになったり、協働的に表現活動を展開できるようになったりした。
- 本単元は、今なお身近に残る室町文化を取り上げるため、歴史をルーツと捉えることが他の単元よりもしやすい。単なる知識・技能の習得に終始せず、単元を通して歴史が自分たちの生活に大きく関わっていることを取り上げ、歴史を学ぶ意義につなげていくような問いや活動の設定を綿密に練り上げていきたい。

学習計画（総時数4時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す	銀閣の様子を見たり、金閣と比べたりしながら話し合い、学習問題をつくる。架空の動画チャンネルで身近な歴史について紹介する動画を作成するという見通しをもつ。	京都の室町に幕府がおかれた頃の代表的な建造物や絵画などに着眼して課題を見出すことができる。（思考・判断・表現力）
2	習得する 考える 対話する	水墨画（図画工作科）、茶の湯（家庭科）、生け花（総合的な学習の時間）の体験を通して、室町時代に生まれた文化が自分たちの生活のルーツになっていることを調べ、動画で紹介する。	必要な情報を集め、読み取り、水墨画や茶の湯などの室町時代の文化の特色について理解することができる。（知識・技能）
3	習得する 考える 対話する	能・狂言・田楽などの芸能文化の鑑賞を通して、その芸能の意味や込められた思いなどを理解し、現在の生活との関わりを捉え、動画で紹介する。	必要な情報を集め、読み取り、能や狂言などの室町時代の文化の特色について理解することができる。（知識・技能）
4 (本時)	対話する 振り返る	学習問題について調べてきたことを整理し、室町時代の文化を、動画で紹介する活動を行う。	学習したことをもとに、室町時代に生まれた文化や習慣と今日の自分たちの生活との関わりを考える。（主体的に学習に取り組む態度）

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 学習したことをもとに、室町時代に生まれた文化と自分たちの生活の関わりを考え、表現する。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1) 既習事項をふり返る。</p> <p>(2) 銀閣寺の書院造の写真と和室の写真の共通点を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>東和小学校に残る室町文化をストーリーチャンネルで伝えよう。</p> </div> <p>(3) 本時の活動内容を説明する。</p>	<p>2 発信内容を検討する。</p> <p>T:何をテーマにするのか決まりましたか?</p> <p>C:ふすまにします。あと、墨絵。</p> <p>T:和室のふすまを見ましたか?墨絵はないよ。</p> <p>C:そうなんですか?じゃあ、やめよう。</p> <p>T:他に墨絵を選んだ人いますか?</p> <p>T:実際の墨絵はないけど、どうやって紹介する?。</p> <p>C:資料集のこの絵を使って紹介します。</p> <p>C:みなさんの家にはありませんか?って問いかけます。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>個人活動(自力解決)での原稿作成だったため、原稿を完成させることが困難だった児童もいた。</p> </div>	<p>2 発信内容を検討する。</p> <p>T:同じテーマを選んだ人同士で集まり、互いに協力して原稿を作ってみましょう。</p> <p>C:学校のふすまに墨絵はないけど、どうしよう?</p> <p>C:家のふすまには墨絵があることを伝えよう。</p> <p>C:床の間は書院造りが始まり、ということだけでなく他に紹介できることはないかな。</p> <p>C:この前体験した生け花が床の間に花を飾るために発展したって講師の先生が言っていたね。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ペアやグループという他の形態を取ることで、話し合いも深まり、根拠を明らかにした説明が可能となる。</p> </div>
課題解決	<p>2 発信内容を検討する。</p> <p>(1) 動画内容と原稿を検討する。</p> <p>C:水墨画を紹介しよう。</p> <p>C:畳が室町時代から敷かれることになった。</p> <p>C:床の間も紹介しよう。</p> <p>(2) 動画を撮影する。</p> <p>*タブレット端末使用*個人・ペア</p> <p>(3) 学習支援アプリに貼り付ける。</p> <p>3 作成した動画をもとに交流する。</p> <p>(1) 自分が調べた室町文化を紹介し、交流し合う。</p> <p>(2) 室町文化が今に伝わっていること、自分たちの生活に関わっていることについて話し合う。</p>	<p>3 作成した動画をもとに交流する。</p> <p>◆友達の動画を自由に視聴し合う場面</p> <p>T:おすすめの友だちのレポートはありますか?</p> <p>T:自分が選んだ内容以外の人のおすすめは?</p> <p>*児童から推薦してもらってモニターで3人視聴した。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>動画を互いに見合う時間と、交流を深める教師のコーディネートが不十分であった。</p> </div>	<p>3 作成した動画をもとに交流する。</p> <p>T:どのような室町文化が身近にありましたか?</p> <p>C:和室にたたみがしきつめてありました。室町時代から続く文化だと初めて知りました。</p> <p>C:和室のふすまをレポートしました。学校には水墨画が描かれていなかったけど、私の家のふすまには水墨画が描かれています。</p> <p>T:今の私たちの生活は歴史の上に成り立っているんですね。</p> <p>C:学校の和室にも自分の家の和室にも床の間があります。違い棚もあり、書院造りが今に残っていることが分かりました。</p> <p>C:室町時代の文化は今の「日本らしさ」の基であると分かりました。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>十分に時間を確保し、話し合いを充実させることで、歴史を学ぶ意義に気付かせ、価値を付けることができる。</p> </div>
振り返り	<p>4 本時をふりかえる。</p> <p>○ さらに伝えたいことは何かを考え、原稿を作成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>身近なところにも室町文化が残っている。</p> <p>歴史は私たちの生活に根付いている。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ ヒストリーチャンネルという番組のレポーターとして歴史的事象を紹介するという場面設定は、動画世代の児童に興味深く、主体的に他者と関わり合いながら学習を進めることができた。また、歴史が身近にあるということに気付いたという授業後の感想も多かった。</p> <p>● タブレット端末をさらに有効に活用することによって、もっと互いに鑑賞したり、意見を述べたりする交流の時間を確保することができ、内容に深みを持たせることができると思う。今後も授業者が児童の意見や考えを引き出す問いかけを工夫していきたい。</p> </div>	

第4学年 算数科「倍の見方」「A数と計算」

相手を意識しながら根拠をもって説明することで、表現する力を育てる
小浜小学校 佐藤 裕美

I 単元構成の工夫

本単元では、「基準量を1とみたとき、比較量が○にあたる」という見方を学習する。その後、「簡単な場合についての割合」を学習する。二つの包帯の伸び方を比べる活動を通して、「差」ではなく「倍」を使って比べることがあることを知るとともに、そのよさにも気付かせていきたい。単元を通して、友達に説明する時間を取り入れ、相手を意識しながら根拠をもって説明したり、分からないところは理由を聞いたりしながら学び合うことで、説明する力を身に付けさせたい。

児童の実態

本学級の児童は算数科の学習に意欲的であり、授業中に挙手して自分から話そうとする姿が多く見られる。しかし、思いつきで根拠なく話したり、じっくりと考えず答えを出したりする。さらに、相手の反応を見ながら話したり、筋道を立てて分かりやすく説明したりしようとする児童は少ない。また、学習したことが定着するまでに時間がかかる。

単元を通して育成したい子どもの姿

「簡単な場合の割合」を用いて課題を解く中で、相手を意識しながら根拠をもって説明し、解決しようとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 動物の親子の大きさ比べを取り上げたことで、児童の関心を高めることができた。
- テープ図を使って説明することに重点を置いて単元を進めたので、どの時間も図を使い自分なりの根拠をもって考えを説明する姿が多く見られた。
- 4時目(本時)だけ、動物の親子が出てこなかったのも、児童が前時とのつながりを感じられなかった。
- 自分だけが理解できる図を書いてしまったり、単位をはっきり書かなかったり、関係のない図を書いたりする児童がいた。それらの児童を言語活動を通して正しい図と比較検討させることによって、より分かりやすい図を書くことができるようにさせたい。


学習計画（総時数5時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	習得する	クジラの親子の体長を比べる活動を通して、15mが3mの何倍かを求めるには、どんな計算をすればよいかを数直線を基に考える。	何倍かを求めることができる。 (知・理) (思・判・表)
2	考える 対話する	キリンの親子の身長を比べる活動を通して、180cmの3倍にあたる大きさを求めるには、どんな計算をすればよいかを数直線を基に考える。	テープ図や数直線の図を用いて数量の関係に着目してその意味をとらえ、説明できる。 (知・理) (思・判・表)
3 (本時)	考える 対話する	ヒョウの親子の体重を比べる活動を通して、数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて乗法の式に表す。	二つの数量の関係に着目して、テープ図や数直線の図を用いて基準量を求め方を考え、説明できる。 (知・理) (思・判・表)
4	考える 対話する	どちらの包帯がよく伸びるのかを考える活動を通して、ある数量と数量の関係と別の数量と数量の関係を倍を使って比べる。	差で比べられない場合、割合に着目して比較する方法を考え、説明できる。 (思・判・表)
5	習得する 振り返る	「倍」で比べる場面の問題を解くことで、割合のよさを考える。	割合で比べる方法を生活に生かそうとする。(主)



II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 図や式などを使って、もととなる数の何倍かを、根拠をもとに説明することができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>																			
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>のばす前</td> <td>伸ばした後</td> </tr> <tr> <td>包帯A</td> <td>30 cm</td> <td>→ 60 cm</td> </tr> <tr> <td>包帯B</td> <td>1.5 cm</td> <td>→ 5 cm</td> </tr> </table> <p>よく伸びる包帯はどちらでしょう。</p> <p>T: よくのびるとはどういうことでしょうか。</p> <p>C: たくさん伸びること。</p> <p>(1) 本時のめあてをつかむ。</p> <table border="1"> <tr> <td>どのようにくらべるとよいのかな。</td> </tr> </table> <p>(2) 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>T: どんな方法で比べるとよいと思いますか。</p> <p>C: 差で比べる。</p> <p>C: 差で比べると同じ30 cmになるから同じということになる。</p> <p>C: 倍で比べる。</p>		のばす前	伸ばした後	包帯A	30 cm	→ 60 cm	包帯B	1.5 cm	→ 5 cm	どのようにくらべるとよいのかな。	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>T: (もとの長さが同じ包帯を2本伸ばして見せる。)</p> <p>よく伸びる包帯はどちらですか。</p> <p>C: 右の包帯です。</p> <p>T: どうしてそう思ったのですか。</p> <p>C: スピードが速かった。</p> <p>T: 伸びる前と伸びた後、何が変わりましたか。</p> <p>C: 長さ?</p> <p>「よく伸びる」ということがどういうことかをしっかりとおさえることができなかった。</p> <p>T: では、これだったらどちらの包帯がよく伸びると言えますか。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>伸ばす前</td> <td>伸ばした長さ</td> </tr> <tr> <td>包帯A</td> <td>30 cm</td> <td>→ 60 cm</td> </tr> <tr> <td>包帯B</td> <td>1.5 cm</td> <td>→ 4.5 cm</td> </tr> </table> <p>C: Aです。(ほとんどの児童)</p> <p>C: だって、60 cmの方が長いでしょ。</p> <p>C: あれ? Bかもしれない。</p> <p>C: 同じだよ。</p> <p>C: どっちも30 cm伸びてる。</p>		伸ばす前	伸ばした長さ	包帯A	30 cm	→ 60 cm	包帯B	1.5 cm	→ 4.5 cm	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <p>T: 今日はどちらの包帯がよく伸びるかを考えたいと思います。</p> <p>T: 次の包帯を伸ばした後の長さを測ったら、包帯Aが60 cmで包帯Bが4.5 cmでした。どちらの方がよく伸びますが、分からないので、どのぐらい伸びたか分かりません。</p> <p>伸ばした後の長さを先に提示することで、もとの長さに着目することができるようにする。</p> <p>T: そうですね。伸ばす前の長さが分からないとどちらの包帯がよく伸びるか分かりませんね。伸ばす前の長さは次のようになっていました。伸ばす前は、包帯Aが30 cm、包帯Bが1.5 cmでした。</p> <p>T: どちらの包帯がよく伸びますか。</p> <p>C: 引くとどちらも30 cmで、同じだ。</p> <p>C: どうやって比べたらいいのかな。</p>
	のばす前	伸ばした後																				
包帯A	30 cm	→ 60 cm																				
包帯B	1.5 cm	→ 5 cm																				
どのようにくらべるとよいのかな。																						
	伸ばす前	伸ばした長さ																				
包帯A	30 cm	→ 60 cm																				
包帯B	1.5 cm	→ 4.5 cm																				
課題解決	<p>2 自分の考えをまとめる。</p> <p>3 自分の考えを説明し合う。</p> <p>T: (図や式を指して)どのように考えたか分かりますか。</p> <p>C: (再生したり、友達の考えを予想したりして、説明する。)</p> <p>T: 近くの人とどのように考えたのか話してみましょう。</p> <p>C: (それぞれ説明し合っている。)</p>	<p>3 自分の考えを説明し合う。</p> <p>T: この式について説明しましょう。</p> <p>C: (図を指さしながら) 30が2つあるということです。</p> 	<p>3 再生を促す問いかけや考えの共通点を問うことで、児童の考えをつなげたり、深めたりする。</p> <p>T: この式を書いた〇〇さんの気持ちが分かりますか。</p> <p>T: 〇〇さんと〇〇さんの考えの似てるところはどこですか。</p>																			
振り返り	<p>4 本時のまとめをし、学習を振り返る。</p> <p>(1) 本時のまとめをする。</p> <table border="1"> <tr> <td>もとにする大きさがちがうときには、倍を使ってくらべることがある。</td> </tr> </table> <p>(2) 適用問題を解く。</p> <p>(3) 振り返りを書く。</p>	もとにする大きさがちがうときには、倍を使ってくらべることがある。	<p>「コーディネートの工夫」における</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 式や図などからどのように比べるかを話したり、話したりする姿が多かった。 ○ 児童が話をしたり、話をしたりする場面やグループでの話し合いを取り入れることで、自分の考えに書き添えたりしながら、考えを整理する姿が見られた。 ● 全員が課題をしっかりとつかむことができ、より分かりやすい説明ができるようになる課題提示の工夫と、子どもたちの考えや意見をつなげ、より分かりやすい説明ができるようになる発問の工夫をしていく必要がある。 <p>● 課題と他の児童に説明させることで、相手を意識したかを見られた。 </p>																			
もとにする大きさがちがうときには、倍を使ってくらべることがある。																						

学習集団の中で自分の考えを広げ深める力を育てる

安達中学校 佐藤 昭英

I 単元構成の工夫

第1学年で学習した一元一次方程式の学び直しの機会を設けながら、二元一次方程式を連立させることのよさに気づかせた後、式操作活動を通して文字を減らし、解くよさを感じ得るように工夫した。日常の問題を数学的に捉え、連立方程式を活用すれば容易に解くことができることに気付かせ、問題解決能力を高めたいと考える

児童の実態

1年時の計算問題の定着がなされていない生徒が多く、3月実施の実力テストにおいて、10点未満の生徒が34名中10名いる。15点以下となると16名となり、約50%以上の生徒が計算問題に対して苦手意識を持っていると考えられる。7月の調査では、数学が嫌い（どちらといえば嫌い）の生徒が25%いる。その一方で、数学が好き（どちらかといえば好き）の生徒が約75%いる。

単元を通して育成したい子どもの姿

事象を数理的に捉え、数学の問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決しようとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 振り返りを大切にしながら、対話的な学びを通して得られた情報と既習の知識とを活用して、計算する方法の定着は図られた。
- これまでの学習を生かして問題を解決することで、数学を利用することの意義を実感し、数学のよさを感じ得させることができた。
- 数学が日常生活に生きるよう、他教科との横断的な深い学びにつなげるために、関連する教科担当と連携し、単元や授業の一部にゲストティーチャーとして指導してもらうなど工夫が必要である。

学習計画（総時数12時間）

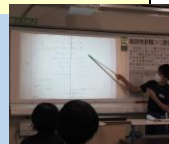
時	場面	学習活動 (夢中になって学んでいる姿)	資質・能力
1	見通す	様々な問題を立式し、他の生徒と話し合いながら多くの式の分類を行う。	二元一次方程式とその解の意味、連立方程式とその解の意味を知る。 (知・技)
3 5	考える 習得する	加減法、代入法を理解し、1つの文字を消去する方法を考え、それを用いて多くの連立方程式を解く。	加減法、代入法を理解し、それを用いて連立方程式を解くことができる。 (知・技)
6 7	考える 習得する	いろいろな連立方程式の問題を、既知の連立方程式になおして解く方法を考え、多くの問題を解く。	かっこを含む連立方程式、係数に少数や分数を含む連立方程式、 $A=B=C$ の連立方程式の解き方を理解し、解くことができる。 (知・技)
8 12 本時 12	考える 対話する 振り返る	日常にある具体的な問題を数学的に捉え、その数量関係に着目し、連立方程式をつくり、多くの問題を解く。	連立二元一次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。また、求めた答えが問題に適しているかどうかを、問題の場面に戻って考え、説明することができる。 (主) (思・判・表)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 二酸化炭素の排出量の削減問題を数学の事象で考え、連立方程式を使って問題を解決することができる。また、この問題を通して身近な事象を数学を利用し、そのよさを感じ得る。

	学習活動・内容 (T 主な発問 C 児童の反応)								
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1) 地球温暖化の原因を考える。</p> <p>(2) 地球温暖化を防ぐために、私たち一人一人ができることを考える。</p> <p>(3) 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 二酸化炭素の排出量の削減について、目標を達成するにはどうすればよいか。 </div> <p>(4) 本時の問題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 生徒会では、二酸化炭素の排出量を削減するために自分たちが取り組みそうなことを下の表のようにまとめ、二酸化炭素の排出量750kg削減を目標に300人の生徒全員で実行することにしました。Bは全員が実行し、AとCは選択制にしました。目標を達成するためにはAとCは何人実行しなければなりませんか。 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>取組み</th> <th>実行する内容と、1人が1か月間毎日実行して削減できる二酸化炭素の排出量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>エアコンの冷房を利用する時間を1日に1時間減らすと、2.6kg削減できる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>液晶テレビを見る時間を1日に1時間減らすと、0.7kg削減できる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>ノート型パソコンを使う時間を1日に1時間減らすと、0.2kg削減できる</td> </tr> </tbody> </table>	取組み	実行する内容と、1人が1か月間毎日実行して削減できる二酸化炭素の排出量	A	エアコンの冷房を利用する時間を1日に1時間減らすと、2.6kg削減できる	B	液晶テレビを見る時間を1日に1時間減らすと、0.7kg削減できる	C	ノート型パソコンを使う時間を1日に1時間減らすと、0.2kg削減できる
取組み	実行する内容と、1人が1か月間毎日実行して削減できる二酸化炭素の排出量								
A	エアコンの冷房を利用する時間を1日に1時間減らすと、2.6kg削減できる								
B	液晶テレビを見る時間を1日に1時間減らすと、0.7kg削減できる								
C	ノート型パソコンを使う時間を1日に1時間減らすと、0.2kg削減できる								
課題解決	<p>2 既習事項を活用して、式を立て</p> <p>C: 求めるものを、x、yにする。</p> <p>C: 300人の生徒全員の関係から立式する。</p> <p>C: 二酸化炭素の排出量の関係から立式する。</p> <p>C: 連立方程式を解いて答えを求める。</p> <p>3 全体で話し合う。</p> <p>T: 前にきて説明してもらいましょう。</p> <p>C: 立式して連立方程式を解くと、A200人 B100人。</p> <p>T: 補足説明する。</p>								
振り返り	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>T: 学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日常生活や社会の問題に、連立方程式を利用して解決する。 </div>								

	<コーディネートの実際>
1	<p>地球温暖化の原因について考える。</p> <p>T: 地球温暖化の原因は。</p> <p>C: 二酸化炭素。メタン。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 生徒の興味・関心を高めようと、導入時にPower Pointを使用した。他教科との横断的に学びにつなげようとした。あまりにも画像が多すぎ、かつパソコンが動かなくなるという事態もあり、本時の課題、問題に取り組む時間が十分確保できなかった。 </div> <p>C: 地球温暖化を防ぐために、私たちにできることは二酸化炭素の削減だ。</p> <p>T: 二酸化炭素の排出量の削減について、目標を達成するにはどうすればよいか考えてみよう。</p> <p>2 既習事項を活用して、式を立てる。</p> <p>T: では、問題に取り組んでみましょう</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 導入に時間をかけすぎたため、課題解決の時間が少なくなってしまった。そのため、個人でじっくり考える→友達と話し合い、教え合う→解決、とつなげるところが、駆け足になってしまった。 </div> <p>(自力解決できている、もしくはできそうな生徒がかなり少なかったため)</p> <p>T: わかっていることを確認しましょう。</p> <p>C: 生徒全員で300人。二酸化炭素の目標排出量750kg</p> <p>T: 問題解決できた生徒は、右の練習問題に取り組んでください。</p> <p>3 全体で話し合う。</p> <p>T: ○○さん前に来て説明してください。</p> <p>C: 立式して連立方程式を解くと、A200人 B100人。</p> <p>T: 補足説明</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 上記に述べた通り、導入時に時間をかけすぎてしまったため、解決できない生徒にとっては友達と話し合ったり、教えてもらったりする時間も確保できないまま全体での解決方法の発表となってしまった。 </div> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>T: 学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。</p>



	<コーディネートの改善>
1	<p>地球温暖化を防ぐために何が必要か考える。</p> <p>T: NHKスペシャル「2030未来への分岐点」(5:00)をみます。地球温暖化についての動画を見て、どう思いましたか。</p> <p>C: このままでは、地球の未来は大変なことになる。</p> <p>C: 地球温暖化を防ぐ必要がある。</p> <p>C: 二酸化炭素の削減が必要である。</p> <p>T: そうですね。今日の課題は「二酸化炭素の排出量の削減について、目標を達成するためにはどうすればよいか」です。そのために、次の問題を考えてみましょう。</p> <p>2 既習事項を活用して、式を立てる</p> <p>T: 最初は、自分の力で考えてみましょう。(ある程度考える時間を確保したのち)</p> <p>T: わかっていることは何か確認しましょう。○○さん何ですか。</p> <p>C: 生徒全員で300人。</p> <p>T: □□さん、○○さんと違うことで他にないですか。</p> <p>C: 二酸化炭素の排出量の合計は750kg</p> <p>T: そうですね。わかっていることは生徒全員の人数と二酸化炭素の排出量ですね。ではそのことからどんな式ができるか、もう一度各自で考えてみましょう。(自力解決の時間を確保したのち)</p> <p>T: では、周りの人と考えを話し合ってみましょう。(友人と学び合うことができていない生徒には個別に支援したり、ヒントカードを与えたりする。)</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 個人で考えたことを、意見交換することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより確かなものにしたため、友達と学び合ったりして、課題解決にじっくり取り組ませる。 </div> <p>3 全体で話し合う。</p> <p>T: ○○さん、説明してください。</p> <p>C: 二酸化炭素の排出量の関係から $x + y = 300$ 二酸化炭素の排出量の関係から $2.6x + 0.7 \times 300 + 0.2y = 750$ この連立方程式を解くと $x = 200$, $y = 100$ これらは問題に適しているため、Aが200人、Bが100人になります。</p> <p>T: 今の考えはわかりましたか。難しいようなので、○○さん、もう少しわかりやすく説明してください。(教師による補足説明ではなく生徒による説明を再度入れる。)</p> <p>4 学習したことをoutputするために練習問題を取り組ませ、最後に、本時の学習で新たに気付いたことや考えが変わったことを自分の言葉で確認させる。</p> <p>T: 二酸化炭素の削減についての練習問題あります。右の練習問題をやりましょう。(課題解決が困難な生徒に個別に支援する。)(練習問題を解決したのち)</p> <p>T: 今日の課題は「二酸化炭素の排出量の削減について、目標を達成するためにはどうすればよいか」でした。授業を振り返って、のまとめを自分の言葉でまとめてください。</p> <p>C: 地球温暖化の原因になっている二酸化炭素の排出量を減らすために、生活の中で何をどのように実行すればよいか、連立方程式を使うと求めることができる。</p>

コーディネートの工夫」における ○成果と●課題

- 今回導入に時間をかけすぎたことが逆に、「環境問題も数学の問題にすることができる」とまとめに書いた生徒も見られた。
- タブレットを活用し、他教科との関わりにも触れつつ導入部分を簡潔にすることで、課題解決と振り返りの時間が確保でき、自分の考えを広め高める対話的な学びを取り入れた授業が展開できる。さらに、outputのために地球環境問題の練習問題にも十分時間をかけることで理解が深まると考える。また、導入部分はNHKの動画を使うことで容易に生徒の興味・関心も高められた状態で課題へとつなげられるのではないと思った。

第3学年 理科「太陽とかげを調べよう」「B 生命・地球」

「影遊び」から自然現象を科学的に捉える
 渋川小学校 山口 美由紀

I 単元構成の工夫

導入では、影つなぎ遊びを取り入れ、影のでき方や向きに興味をもたせる。建物の日陰や物の影の位置に着目して影の向きを観察させ、太陽と日陰や影の位置変化の決まりに関する問題を見いだしたり、太陽の位置と影の向きの関係性を捉えたりできるようにしたい。太陽と日陰や影の位置について調べる活動を通して、観察する技能を身に付けるとともに、観察時の太陽の位置による日陰の変化についての差異点や共通点をもとに問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

児童の実態
 「植物を育てる」「昆虫を飼育する」などの経験から、生き物への関心が高い児童は多いが、「太陽の位置と地面の様子」や「日なたと日蔭の様子」など、身の回りの自然の事物・現象については科学的に関係を考えようとする児童は少ない。また、科学的な事物・現象についてどのような視点で向き合えばよいのか理解している児童も少ない。

単元を通して育成したい子どもの姿
 太陽の位置による日陰の変化を時間をおって比較しながら考察し、時間がたつと影の向きはどう変化するか、自分の考えを相手に分かるように伝えるとき、学んだことを自分の生活に活用していこうとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題
 ○ 影つなぎや影踏み遊びをしたこと、その様子を写真や動画に撮って太陽と影の向きを確認したことで、分かったことを図に表すことができた。遊びの活動後に振り返る場面を設けることで、児童自身が太陽と影の向きについて生活と結びつけて考えることができた。
 ● 児童の発言や気付きを次時に紹介し、課題設定までの話し合いに生かすことで、児童の生活と授業が深く関わっていることに気付かせたい。身近な事象を科学的に捉えるとともに、日常生活と授業を結びつけ学ぶ意欲を高めていく。
 ● 観察では、記録用紙に記入するだけでなく、児童が写真で記録することも取り入れていく。撮影する際、自分の影が映り込まないように考える活動から、太陽の位置と影の向きの変化に気付くと思われる。

学習計画（総時数 7 時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す	影つなぎをして、影について気づいたことや疑問に思ったことから、太陽と影について調べる問題を見いだす。 問題「かげは、どんなところに行けるのか。」	影つなぎの活動から、差異点や共通点をもとに問題を見だし、表現できる。 (思・表)
2	観察する	遮光板を使って、太陽の位置と影の向きとの関係を調べる。【観察1】	太陽と影の位置について遮光板を正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録できる。 (知・技)
3	振り返る 考える	太陽の位置と影の向きとの関係についてまとめ、学習したことを生かして影踏み遊びをする。 まとめ「日光をさえぎる物があると太陽の反対がわにできる。」	影踏み遊びを通して、学習したことを確認することができる。 (知・主)
4	見通す 対話する	午前と午後の影の写真から、影の向きについて気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、太陽の位置と影の向きについて調べる問題を見いだす。 問題「かげはいつも同じ向きにできるのか。」	午前と午後の影の向きとの差異点や共通点を基に問題を見だし、表現できる。 (思・表)
5	観察する	遮光板を使って、時間の経過に伴う太陽の位置の変化について調べる。 【観察2 ㊦】	太陽と影の位置について遮光板を正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録できる。 (技・主)
6	観察する	方位磁針を使って、時間の経過に伴う太陽の位置と影の向きを調べる。【観察2 ㊦】	太陽の位置と影の向きについて、遮光板と方位磁針を正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録できる。(知・技)
7 (本時)	振り返る 考える 対話する	観察結果をもとに比較・考察し太陽の位置と影の向きの変わり方についてまとめる。 まとめ「時間がたつと太陽の位置が東から南、西へとかかわると、かげの向きは西から北、南へとかわっていく。」	太陽の位置と影の向きの変わり方について観察結果をもとに考察し表現できる。 (思・表)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい>

太陽の位置が変わると影の向きが変わることについて、観察結果を比較したことをもとに考察し、互いの考えを交流することを通して、太陽の位置が東から南を通して西へと変わることから影の向きが西から東へと変わること理解することができる。

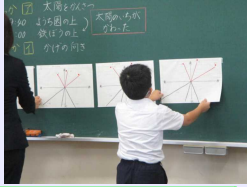
	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。 (1) 前時の観察結果を発表する。 (2) 本時のめあてをつかむ。 T: 観察2のアとイの結果から分かることは何かな。 C: 時間がたつと太陽の位置が変わっていたね。 C: 時間がたつと影の向きも変わっていたね。 時間がたつと、かげの向きはどのようにかわるのか。</p>
課題解決	<p>2 観察2アとイの観察結果から、どのようなことがいえるか考える。 (1) 各班の観察結果を比較する。 C: どの班も、太陽の位置が変わると影の向きも変わっているね。 (2) 自分の考えをまとめる。 T: 影の向きが変わるのは、太陽の位置がどのように変わるからかな。 C: 太陽の位置は、東から南、西へと変わっているね。 C: 影の向きは西から東へと変わっているね。</p> <p>3 観察結果からいえることについて考えを発表し合う。 (1) 班内で発表し合う。 (2) 全体で紹介する。</p>
振り返り	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>時間がたつとかげの向きは西から東へかわる。それは、太陽の位置が東から南を通して西へとかわるからである。</p>

<コーディネートの実際>

1 本時の学習課題を捉える。
 (1) 前時の観察結果を発表する。
 (2) 本時のめあてをつかむ。

各班の結果の比較では差異点ばかりに目が向き、結果から手がかりを見つけ出すことに時間を要した。

2 観察2アとイの観察結果から、どのようなことがいえるか考える。
 (1) 各班の観察結果を比較する。
 C: 一つ一つ違う。(各班の傾きの違いを指摘)
 T: (影の向きと太陽の位置を方位で確認)
 C: 太陽の位置と影の向きの変り方が各班とも同じだ。
 (2) 自分の考えをまとめる。
 T: 影の向きが変わるのは太陽の位置がどのように変わるからかな。
 C: (どのようにの意味が捉えきれない)



観察記録を整理し切れてなかったため、どのように変化するのか捉えるまで時間を要した。また、班でまとめた観察結果を板書し、手元に記録がなかったためイメージしにくかった。

3 観察結果からいえることについて考えを発表し合う。
 C: 太陽の位置が変わると影の向きも変わるね。

発表後に動画で一日の太陽の動きを確認したことで、太陽の変化や影のイメージをもつことができた。

<コーディネートの改善>

1 前時の観察結果を分かりやすく表に整理させ、それをもとに気付いたことを発表させてめあてにつなげる。
 観察結果を方位や時刻、矢印を入れて表に整理しておくことで、時間がたつと何が変化するのか気付かせ、子どもの言葉から課題を見出す。

T: 班毎の観察結果から気付いたことは何ですか。
 C: 時間がたつと、太陽は動いている。
 C: 時間がたつと、影の向きが変わっている。
 T: 他の班の結果も同じかな? 比べて考えてみよう。
 時間がたつとかげの向きがかわるのはなぜか

2 各班の観察結果を発表させる。
 T: 各班の結果を黒板に貼り、比べてみましょう。

3 各班の結果を比較しながら、どのようなことがいえるか話し合わせる。
 班の結果をまとめた観察結果は板書し、観察記録は手元に置いて、太陽の位置と影の関係を具体的に考えさせる。

T: 各班の観察結果を比べてどんなことがわかりますか。
 C: 観察場所が違っていても、どの班も太陽の位置と影の向きの変り方は同じだ。
 C: 影の向きは、時間がたつと西から北、東へと変わっているね。

観察記録を見ながら太陽の位置の反対側に影ができることを抑え考えさせる。

T: 太陽の位置の反対側に影ができるね。影の向きが変わるのは、太陽の位置がどのように変わるからかな。
 C: 太陽の位置が東から南、西へと変わると、影の向きは西から北、南へと変わっている。
 T: 映像で太陽と影の動きを確認してみましょう。

「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題
 ○ 考えを発表して結論をまとめた後に、動画でその現象を確認したことで、思考したことが可視化され、理解を深めることができた。
 ● 考察までに観察記録用紙に矢印を書き込んだり、結果を図や表を用いて整理したりした方が比較すべき所が可視化され、より分かりやすくなり、関係性を捉えやすくなると思われる。

エネルギーの視点をもって事象を説明する力を育てる

東和中学校 武田 透

I 単元構成の工夫

本単元は、力学的な仕事の定義を基に、仕事とエネルギー、力学的エネルギーに関する現象について、日常生活や社会と関連づけながら、見通しをもって観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、仕事とエネルギーの関係、位置エネルギーと運動エネルギーの互換性、力学的エネルギーの保存性を見いだして理解させることがねらいである。そこで、身近な事象を科学的な視点で捉え、実験結果や既習事項、集めた情報などから答えを導き出す経験をさせたり、班や学級で話し合う活動を通して、エネルギーについて科学的に追求させたい。

児童の実態

本学級の生徒は、昨年度実施したNRTにおいて、「エネルギー」の単元の正答率は全国平均を上回っており、目に見えない「エネルギー」についての概念はある程度理解できている。しかし、「エネルギー」のように目に見えない抽象的・概念的なものを科学的に探究して理解することについては、まだまだ苦手意識をもっている生徒が多い。

単元を通して育成したい子どもの姿

エネルギーという視点をもって事象を見ることで、物体の運動の規則性を見いだし、夢中になって物体の運動とエネルギーの関係を科学的に追求する姿。

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

○実験を通してエネルギーについて考えさせることで、目に見えない位置エネルギー、運動エネルギー、力学的エネルギーの関係性が理解できるようになった。

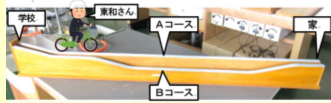


●運動エネルギーと位置エネルギーの移り変わりは数値で比較すれば分かりやすくなる。しかし、数値で比較するためには仕事の計算が必要になるため、仕事の計算の技能を確実に身に付けさせる演習の時間を設定できるようにする。

学習計画（総時数 14 時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1 ・ 2	問題発見 仮説	エネルギーをもちているとはどういうことかを考える。	物体がエネルギーをもちている状態について理解する。(知・技)(主)
3 ・ 4	実験 分析解釈	位置エネルギーが質量と高さ、運動エネルギーが質量と速さに関係することを見いだす。	運動エネルギーの大きさは物体の質量と速さに、位置エネルギーの大きさは物体の質量と高さに関係することを見いだす。(思・判・表)
5 ・ 7	実験 分析解釈	力学的エネルギーは、ほかの物体になし得る仕事で測ることができることを見いだす。	・仕事と力学的エネルギーの量的な関係を調べる。(知・技) ・力学的な仕事の定義を理解する。(思・判・表)
8 ・ 10	実験 分析解釈	仕事の能率を比べるには、単位時間あたりの仕事の大きさを比べれば良いことを見いだす。	・道具を使う場合と使わない場合の仕事の大きさを調べる(知・技) ・仕事の原理を理解する。(思・判・表)
11 (本 時)	分析解釈 検討改善	位置エネルギーから運動エネルギーに移り変わる量がちがうと、速さが変化することを見いだす。	力学的エネルギーの保存をもとに、運動エネルギーの変化の大きさの変化に関係づけ、探究しようとする。(思・判・表)
12 ・ 13	習得 活用	エネルギーはさまざまに形態を変えるが、総量は保存されることを知る。	摩擦力がはたらかない場合、力学的エネルギーの総量は保存されることを理解する。(知・技)
14	ふり返る	学習内容を整理して、確かめと応用の問題を解く。	エネルギーに関する問題を解くことができる。(知・技)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 小球が同じ高さにあり、同じ大きさの位置エネルギーをもつ力学的エネルギー実験器を用い、コースによって小球のゴールへの到達時間に差が生まれることについて、位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりによる速さのちがいに注目して現象を説明することができる。

	学習活動・内容(T主な発問C生徒の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	1 演示実験の説明を聞く。 2 演示実験の結果を予想する。 3 演示実験を行い、結果を提示する。 4 本時の課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Bコースの方が、早くゴールするのはなぜだろうか。</div>	<コーディネートの実際> 5(1) Bコースの方が、早くゴールする手が見つかる。  T: AコースとBコースでは何が違うのか確認しましょう。 C: 小球の走る距離が違います。 C: 小球の速さが違います。 T: 速さに関係があるエネルギーは何ですか。 C: 運動エネルギーです。 T:他に何が違っていますか。 C: 高さが違います。 T: 高さに関係があるエネルギーは何ですか。 C: 位置エネルギーです。 T: 運動エネルギーと位置エネルギーを合わせて何と言いますか。 C: 力学的エネルギーです。 T: 力学的エネルギーにはどんな特徴がありますか。 C: 常に一定です。 5(2) Bコースの方が、早くゴールする理由をグループで考察する。  T: AコースとBコースで小球の力学的エネルギーはどのように変化したのかグループで話し合しましょう。 C: Bコースの方が速いということは、運動エネルギーが大きいはずだ。 C: 本当にAとBは同じ位置エネルギーをもつといえるのだろうか。 5(3) 考察した内容を全体で共有する。	<コーディネートの改善> 5(1) 問い返しや根拠・理由を求める発問をすることで生徒の思考を促す。 T「AコースとBコースで何が違うのか確認しましょう。」 C「AコースとBコースでは、距離が違います。」 C「AコースとBコースでは、速さが違います。」 T「速さが違うとはどういうことでしょうか。」 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;">「どういふことか」という思考を促す発問をすることで、考察の手がかりやキーワードを生徒から引き出し、生徒の学びの流れをつくる。</div> C「速いBコースの方が運動エネルギーが大きいということです。」 T「なぜ、Bコースの方が運動エネルギーが多いのでしょうか。」 C「AコースとBコースでは、高さが違う部分があります。」 T「高さが違うとはどういうことでしょうか。」 C「高い方が位置エネルギーが大きいということです。」 T「位置エネルギーと運動エネルギーの関係はどうなっているのでしょうか。」 C「位置エネルギーと運動エネルギーは移り変わります。」 6 結論を全体で確認する前に、個人→グループの順で結論の文を検討し、グループの考えを発表させる。それをもとに教師が結論の文を書く。
課題解決	5(1) Bコースの方が、早くゴールする手が見つかる。 T: AコースとBコースでは何が違うのか確認しましょう。 C: 小球の走る道のり(距離) C: 小球の速さ(運動エネルギー) C: 基準からの高さ(位置エネルギー) C: 力学的エネルギーの移り変わり 5(2) Bコースの方が、早くゴールする理由をグループで考察する。 T: AコースとBコースで小球の力学的エネルギーはどのように変化したのかグループで話し合しましょう。 C: Bコースの方が速いということは、運動エネルギーが大きいはずだ。 C: 本当にAとBは同じ位置エネルギーをもつといえるのだろうか。 5(3) 考察した内容を全体で共有する。	5(2) Bコースの方が、早くゴールする理由をグループで考察する。  T: AコースとBコースで小球の力学的エネルギーはどのように変化したのかDボードを使ってグループで話し合しましょう。	「どういふことか」という思考を促す発問をすることで、考察の手がかりやキーワードを生徒から引き出し、生徒の学びの流れをつくる。 C「速いBコースの方が運動エネルギーが大きいということです。」 T「なぜ、Bコースの方が運動エネルギーが多いのでしょうか。」 C「AコースとBコースでは、高さが違う部分があります。」 T「高さが違うとはどういうことでしょうか。」 C「高い方が位置エネルギーが大きいということです。」 T「位置エネルギーと運動エネルギーの関係はどうなっているのでしょうか。」 C「位置エネルギーと運動エネルギーは移り変わります。」 6 結論を全体で確認する前に、個人→グループの順で結論の文を検討し、グループの考えを発表させる。それをもとに教師が結論の文を書く。
振り返り	6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 小球が斜面を転がる時、位置エネルギーが運動エネルギーに変化する。低い場所ほど運動エネルギーが大きくなるため、一番低いところが長いコースほど、小球は速くゴールする。 </div>	6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 教師が結論の文を板書してまとめてしまった。 </div>	「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題 ○考える手がかりを明確にすることで、エネルギーの移り変わりが違うことに気づかせることができた。 ●答えが決まっている一問一答式の発問により、教師が正解を誘導してしまう場面が多かった。質問をくり返したり、生徒に具体的に説明させるなどの工夫で、生徒自身の学びの流れが生まれ、思考が深まると思われる。

第5学年 道徳科「異性への理解の深まり」「言葉のおくりもの」「B(10)友情、信頼」

考えを聴き合いつなげることで、自己を見つめる力を育てる

杉田小学校 阿部 真佐子

I 単元構成の工夫

本単元は、学級活動や日常生活の中で見られる友達との関わり方について、自己を見つめ考える活動が中心である。異性を気にせず誰にでも優しく接したり、遠く離れていても信頼し合ったりする登場人物の姿を通して、男女仲よく協力するよさや信頼し合うことの大切さを学ぶことをねらっている。また、学んだことを生かす場として、宿泊学習や集会活動を位置付ける。そこで、「信頼関係とは何か」についてもう一度自己の考えを見つめ直し、自分と友達の意見をつなげながら話し合うことで、いろいろな考えに気付き、自分を振り返ることができるようにしたい。

児童の実態

本学級の児童は、5年生になって初めて2クラスに分かれたこともあり、自然とみんなで外で遊ぶ姿が多く見られる。しかし、固定化された友達関係での安心感で生活している児童や、自分の思いを中心に発言し、相手の気持ちを考えない言動も見られる。また、学習においては、自分の意見を伝えることに恥ずかしさから消極的な児童の姿も見られる。

単元を通して育成したい子どもの姿

ワークシートの活用や形態を工夫した話し合い活動を通して、自己を見つめ振り返ることで、異性のよさを理解し、関わっていきこうとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題


- 係決めでスムーズに決められなかった実態とアンケートの結果を踏まえたことで、自分事として課題をとらえることができた。
- 宿泊学習や学級集会などで、みんなが楽しめる計画をしたり、男女関係なく話し合い、助け合って活動したりする姿が見られた。
- 互いのよさを認め信頼関係を高めるために、宿泊学習で見られた姿をもとに、道徳で自己を見つめる場を設定した方がよいと感じた。

学習計画（総時数 8時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	考える 対話する	学級活動「係を決めよう」 学級がよりよくなるための活動内容について考えている。	自主的に工夫して活動できる内容を考えることができる。
2 (本時)	考える 対話する	道徳「言葉のおくりもの」 登場人物の心情の変化に着目して話し合い、異性とのよい関わり方を考えている。	相手のよさを理解し、男女関係なく友情を深める大切さに気付くことができる。
3	考える 対話する	道徳「友のしょう像画」 相手を思う行動について話し合い、友情を深めていくために大切なことを考えている。	互いに、信頼し合うことの大切さに気付くことができる。
4 6	対話する 習得する	総合的な学習の時間「宿泊学習」 班ごとに役割を決めたり、めあてや約束を話し合ったりする。また、班のマークを考えたり、班旗を作る。	互いを思いやり、ともに協力し合い、支え合うことができる。
7 8	考える 習得する	学級活動「集会を開こう」 友情を深めるために、みんなで楽しめる集会を計画し、活動している。	全員が楽しめるルールや内容を考え、実行することができる。

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 異性との関わり方について考えることを通して、児童一人一人が男女関係なく異性のよさを理解し、互いに信頼し合いながらよい人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

	学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	<p>1 アンケートの結果や教材の挿絵を基に、学習課題を設定する T：冷やかされるとどんな気持ちになりますか。 C：恥ずかしい。嫌になる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">男女の友情を深めるために大切なことは何だろう。</div>	<p>2 「言葉のおくりもの」を読んで考え、話し合う。 T：休み時間、一郎とすみ子とたかしの関係はどうなっていましたか。 C：たかしは、からかっている。 C：一郎は、冷やかされて嫌な気持ち。 C：すみ子は気にしていない。 T：日直の時は、一郎とすみ子の関係はどうなっていましたか。 C：けんかしたみたいになっていた。</p>	<p>2 「言葉のおくりもの」を読んで考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;">登場人物の顔や挿絵を提示するとともに、3人の関係性をとらえながら範読し、思考の焦点化を図って話し合わせる。</div> <p>T：すみ子の「言葉のおくりもの」を聞いて、一斉に拍手をしたみんなや、一郎に握手を求めに行ったたかしは、どんなことを思ったでしょう。 C：みんなで仲良くしたいな。 T：まず、自分の考えをワークシートに書いてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;">ワークシートに書いてから話し合わせることで、それぞれの心情の変化をとらえやすくする。</div>
課題解決	<p>2 「言葉のおくりもの」を読んで考え、話し合う。 T：算数の時間、日直、運動会の場面で、3人の関係はどうなっているでしょう。 C：たかしは、一郎たちをからかっている。 C：一郎は、からかわれたくないと思っている。 C：すみ子は、たか시를励ましている。</p> <p>T：一瞬教室がしんと静まり返ったとき、クラスのみんなや一郎はどんな事を考えていたでしょう。 C：すみ子は、何を言うのかな。</p> <p>T：すみ子が読み終わったとき、一斉に拍手をしたみんなやたかしは、どんなことを考えていたでしょう。 C：すみ子の言うとおりに、楽しいクラスにしたい。 C：からかって悪かったな。</p> <p>T：男女が仲よく助け合うために、大切なことは何でしょう。 C：相手のいいところを見つける。</p>	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;">資料の内容を確認し、場面毎に登場人物の関係性をとらえることに時間をかけ過ぎてしまったため、後半の中心発問を考える時間が短くなってしまった。</div>  <p>T：すみ子が手紙を読み終えたとき、拍手をしたみんなはどんなことを考えていたでしょう。 C：ありがとうという、いい言葉があったから拍手したと思う。</p> <p>T：男女が仲良く助け合うために大切なことは何でしょう。グループで話し合っ て発表ボードに書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;">グループ内で話し合う時間が十分に確保できず、各自考えたことを書き出すことにとどまった。</div>	<p>T：男女が仲良く、力を合わせるって具体的にはどういうことかな。 T：まず、自分の考えをワークシートに書いてから、グループで話し合っ て、発表ボードに書きましょう。 T：どうしてそう思ったの。 T：〇〇さんが言ったことは、どういうことか分かる。 C：〇〇さんと似ていて、算数で困っているときとかに声をかけて、一緒に解決していきたいです。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の考えの理由を明確にさせ、友達の考えを共有することで、考えが深められるようにする。</div> <p>T：グループでどんな話し合いがされたのか、みんなに伝えましょう。</p>
振り返り	<p>3 自他の学びを共有し、見つめ直す。 T：今日の学習で考えたこと、今後に生かしたいことを書きましょう。 C：男女関係なく、恥ずかしがらないで、相手のことを考えて声をかけたり、協力したりしていきたい。</p>	<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ アンケートの結果や子どもの経験話から、身近な出来事としてとらえ、自分事として意識する姿が見られた。</p> <p>● 考えさせる場を焦点化して発問を吟味し、自分の考えを書く時間や話し合う時間を十分に確保したり、発言をつないだりすることで、自分事として考えが深まると思われる。</p>	

第1学年 道徳科「ありがとう」 「生命の尊さ D-(7)」

立場を置き換え考えた言葉を他とつなぐ中で、深い自覚と態度を育てる

二本松第一中学校 渡邊恵美

I 単元構成の工夫

【生命の尊さ】の内容項目である道徳教材を中心に単元構成を行い、日本赤十字社出典の『まもるいのち ひろめるぼうさい』の中の「ありがとう」の題材を副教材として取り入れた。自分の意見や考えを登場人物と重ね合わせることで、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度も身に付けさせることをねらいとしたい。また、生命を大切にすることは、家族など周囲の人を大切にすることにつながることを、加えて、日常生活においては、人に対してやさしさと思いやりをもって生活することにもつながるということにも気づかせたい。

生徒の実態

明るく、素直な生徒が多いが、時折、中学生としてよく見られる他人の気持ちを考えずに生命軽視の軽はずみな言動をしてしまう場面が見受けられる。アンケートの結果からは、「いのち」を深く考えることができず、自分の「いのち」は自分のものであると単純に考えている生徒が多い。

単元を通して育成したい子どもの姿

日頃、生命軽視の軽はずみな言動をしてしまう生徒たちも教材の中の身近な人の死に接する（死にせまる）場面から「いのち」がかけがえのないものであることを理解することで、生命を尊重する態度が育まれることから、日頃の生活においても人に対してやさしさと思いやりの心を持って接していこうとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 単元の最後に東日本原子力災害伝承館に訪問することを計画したことで、本単元を学ぶ必然性や関心・意欲を高めることができた。
- 総合学習とも関連させ、校外学習で習得したことを新聞レポートにし（「振り返り」）、生徒個々において「生命の尊さ」について考えたことや感じたことなどを表現させることができた。
- 「気づき→考え→実行する」理念に沿い、本単元の最後ゴールに東日本原子力災害伝承館のPRパンフレットを作成させるなど工夫した取り組みも行えると良かった。



学習計画（総時数 5 時間）

時	場面	『資料名』：学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	考える 対話する	『あなたはひかり』 ≪7月道徳≫ 自分自身の「『いのち』の在り様」を見つめ、「いのち」を大切に輝かせていくことについて考えている。	自分の大切な「いのち」という自覚のもとに、輝いて生きることについて具体的にイメージを持つことができる。
2	考える 対話する	『いのちって何だろう』≪8月道徳≫ 「『いのち』とは何か」ということについて、多面的・多角的に考え、自分の「いのち」をじっくり見つめようとしている。	作者の問いかけを自分のこととして捉え、「いのち」の大切さについて自分の行動を振り返ることができる。
3 (本時)	考える 対話する	『ありがとう』〈出典 日本赤十字社 まもるいのち ひろめるぼうさい〉 ≪8月道徳≫ 登場人物の気持ちに近づけるよう積極的に自分の考えを話すとともに、他の生徒の考えも聞こうとしている。	自己の生命が、心身ともに健康で、人間性豊かな思いやりの心がある人間関係の中で保たれていることに気付くことができる。
4	考える 対話する	校外学習≪東日本原子力災害伝承館≫ の事前学習 ≪10月総合≫ 伝承館で何が学べるのか、事前に震災で受けた様々な影響を考えている。	伝承館で学べることに関心を持つとともに、震災で受けた様々な影響について考えようとしている。
5	習得する	校外学習≪東日本原子力災害伝承館≫ ≪10月総合≫ 未曾有の複合災害の経験や教訓、復興の歩みについて積極的に見聞きしようとしている。	震災の被害状況や復興の歩みについて興味をもって見聞きしている。

II コーディネートの工夫

＜本時のねらい＞ 生命の尊さを多面的多角的に捉えさせ、いのちの大切さを深く自覚させるとともに、また、このことが日頃の生活の中における人に対してのやさしさと思いやりの心で接する姿にもつながることに気付かせる。

学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)
<p>1 アンケートの結果から「いのち」について考える。 (1) 事前のアンケート結果を確認する。 2 東日本大震災で起きた被害のデータから当時の被害を振り返る。</p>
<p>3 資料の朗読を聞き、どのような場面から「いのち」というものをどう捉えたかをワークシートにまとめ、発表する。 (1) 各自「いのち」をどう捉えたかまとめる。 (2) 全体で発表を行い、他の考えを聞き合う。 T: この話のどんなところから、「いのち」というものがどんなものであると考えたかな? C: 元気な人が突然なくなる→唯一 C: 自分の命は、誰かのおかげで助かった→感謝、愛 C: もしかしたら自分も命を落としていたかもしれない→偶然 C: 誰かの分も生きていく覚悟ができた→責任、前進 C: 今自分は生きていく→感謝</p>
<p>4 3を受けて、「いのち」の捉え方に対して今までの自分(事前アンケートに記入済み)と比較しながらまとめ、発表する。 T: 「いのち」の捉え方がどう変わったか、今までの自分と比較しながら変化した自分がわかるようにまとめてみよう。 C: いのちを大切にすることは当然だが、これからは支えられて生きていることに感謝するとともに、家族を大切に、友達に対してやさしさと思いやりをもって生活していきたい。</p>
<p>5 友人の考えを聞き合い、「いのち」を大切にすることは、どういうことだと思うか。日頃の生活においてできることをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分のいのちを大切にすることは、家族などの周囲の人を大切にすることにつながる。また、それは日頃から人に対してやさしさと思いやりをもって生活することである。</p> </div> <p>6 資料: 「福島で育った私たちの思い～『東日本大震災から10年』特別企画～」を読む。</p>

＜コーディネートの実際＞
<p>3 資料の朗読を聞き、どのような場面から「いのち」というものをどう捉えたかをワークシートにまとめ、発表する。 (1) 各自「いのち」をどう捉えたかまとめる。 T: どの場面から「いのち」を感じ、その場面がもつ「いのち」の意味をどのようなものとして捉えた?</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>机間巡視して生徒の考えをメモし、指名順は決めたが、教師側でつなぐ視点を見つけ、他の生徒とどうつなぎ、最終的にどんな気づきにつなげたいかという「意図的な設計」が不完全なままで授業が進んでしまっていた</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>▲机間指導の様子 ▲ペアで考えを聞き合う様子</p> <p>(2) ペアで伝え合った後、全体で発表を行い、他の考えを聞き合う。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>様々な捉え方をペアから一斉でも発表させ、個々の考えを吸い上げられたが、それらをつなぎ、個々の考えを広げ深めるには十分だとは言えなかった</p> </div> <p>T: ワークシートの内容を発表してください C: じいじが「お前は逃げろ」と言った場面 T: この場面から「いのち」がどんなものだと考えた? C: 自分のいのちも大事だが、他のいのちも大事</p>

＜コーディネートの改善＞
<p>3 資料の朗読を聞き、どのような場面から「いのち」というものをどう捉えたかをワークシートにまとめ、発表する。 (1) 各自「いのち」をどう捉えたかまとめる。</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>座席表のメモを使い、指名する際、生命の尊さを多面的・多角的に捉えさせるために主人公の思いだけでなく、家族の思いにも目を向けさせるよう＝「意図的な設計」にする</p> </div> <p>(2) ペアで伝え合った後、全体で発表を行い、他の考えを聞き合う。 T: どんな場面からいのちを感じたかな? C: じいじが「お前は逃げろ」と言った場面 T: じいじはどんな思いからそう言ったのかな? C: るみなに生き延びてほしいという思いからだと思う C: 血を絶やさないうほしいということだと思ふ T: △△くんも同じ場面をあげていたけど、どう思った? C: 家系が途絶えてしまったのは困ると思ったのかも C: いのちがずっとつながってほしいと願ったんじゃないかな【いのちの連続性】 T: 次にじいじが死んでしまった場面をあげてくれた人がいたけど、それはどう思った? C: いのちって無くなってしまふものであると思ふ C: いのちは限りがあるということ【いのちの有限性】</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>初めに【いのちの連続性】につながりそうな考えを書いた生徒を連続して指名し、その中で、その行動の奥にある深い思いなどが引き出せるように考えをつないでいく。その後、「死」と「命」について考えた生徒を指名し【いのちの有限性】についての多様な考えも引き出していく。</p> </div>

「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題
<p>○ 「『いのち』の捉え方」の事前と事後の変容がわかるようなワークシートを作成したことで、生徒個々の考えの変容を視覚化でき、実感をもって発表させることができた。</p> <p>○ 形態を「ペア」→「一斉」として考えを伝え合ったことで、個々の考えを丁寧に吸い上げることができた。</p> <p>○ 実際に震災体験のない生徒たちに、本資料を使い、主人公の立場で考えさせたことにより、疑似体験的な感情が自然とわき、考えを深めさせることができた。</p> <p>● 「生命」を「連続性」、「有限性」、「偶然性」という3つの視点で捉え、授業で取り上げる内容や生徒のあらゆる反応を予想しておく。そのような綿密な事前準備を行うことによって、視点ごとに生徒の考えが瞬時に分類でき、意図的なコーディネートのもと、生命尊重についてより深く学ぶことができると考えられる。</p>

第5. 6学年 音楽科「音楽の旅」

「A表現(歌唱・器楽) B鑑賞」

体験や教科横断的な学びを通して、音楽に豊かに関わる力を育てる
原瀬小学校 山崎 純子

I 題材構成の工夫

「音楽の旅」という題材名のもと、国内で特色が顕著である沖縄、富山、北海道の音楽を取り上げ、その土地に育まれた音楽のよさを感じ得ていく。特に、北海道ではアイヌ民族の音楽を取り上げ、総合的な学習の時間で「原瀬の太々神楽」の継承者として芸能を学んだ体験や社会科の調べ学習と関連を図るとともに、授業において教師による演示や映像を通しての体験を通して生活に密着したアイヌ民族の音楽を多面的・多角的に味わうことができるようにする。アイヌ民族の音楽は、踊りという点で神楽と、倍音の音楽という点でモンゴルのホーミーと共通点があり、かつ独特の特徴をもっていることから、日本でありながら異文化の特徴をもっている。この倍音からモンゴルの倍音に視野を広げ、世界を旅する設定とし、世界に伝わる多様な音楽に親しむことができるように題材を構成した。これにより、国内や世界の音楽の旅を通して、音楽文化の背景にある人々の生活や思いを多面的に知り、生活の中にある多様な音楽の特徴やよさ、面白さを感じ取ったり、音楽と生活とのかかわりに気づいたりすることをねらいとした。

児童の実態

本学級の児童は、5年生10名 6年生5名計15名の複式学級である。日本の音楽については、両学年とも、3年生の時から「わらべうた」を通して他者と関わる力を育みながら「拍感」「リズム」「音の高低」「問いと答え」「繰り返し」等の音楽の要素を学んできた。さらに6年生は、日本の5音階や和太鼓による「音楽づくり」を通して自発的・創造的な活動をするなど、日本の音楽を通した学びを積み重ねてきている。また、原瀬小学校は20年近く、地域に伝わる民俗芸能「原瀬の太々神楽」の伝承活動を行っており、両学年とも5年生の時に保存会の方の手から手へと学び演じており、民俗芸能への興味関心が高い。

題材を通して育成したい子どもの姿

教師の演示による体験や映像による体験と教科横断的な取り組みを通して、日本や世界の生活の中にある多様な音楽の特徴やおもしろさ・よさに気づき、豊かに関わろうとする姿

「題材構成の工夫」における ○成果と●課題

- 沖縄から北上する「音楽の旅」という設定によって、児童にとって必然性のある学びとなった。
- 特色が顕著である民謡、民族音楽を、「本物から学ぶ」ことをコンセプトに、伝承者による歌や演奏、踊り等の映像や、教師の歌や実演を通して体験しながら学ぶことで、それぞれの音楽のよさや特徴を体感できた。
- 教科横断的な取り組みをすることで、音楽文化の背景にある人々の生活や思いを多面的に知ることができ、より深い学びにつなげることができた。
- 教科書で取り扱われている共通教材「子もり歌」を位置づけることができなかつたので、別に題材を設定するなど改善策が必要である。

学習計画（総時数 7 時間）

時	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力	関連教科
1	見通す	沖縄民謡を聴き、歌い方や旋律の特徴、伴奏に使われている楽器の音色やリズムの特徴を感じ取りながら歌う。	沖縄民謡の曲想と、旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解している。(知)	【社会科】「あたたかい土地のくらし」 【総合的な学習】「原瀬の太々神楽を舞おう」 【社会科】「寒い土地のくらし」 【家庭科】「小物を作ろう」 5・6年
2	考える 対話する	楽譜を使わず「こきりこ」の実際の映像を見ながら歌を聴き、声の出し方や節まわしなどの特徴について感じ取ったことを図や記号に表し、気づいたことを出し合う。	我が国の音楽の旋律や音色、拍などを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと気づいたこととの関わりについて考え、演奏のよさを見いだして聴いている。(主・思)	
3	習得する	「こきりこ」の演奏の映像を見ながら、演奏に使われている実際の楽器と踊りを体験する。	日本の民謡の特徴を意識しながら、「こきりこ節」を演ずることができる。(技)	
4	振り返り 生かす	「追分節様式」(無拍のリズム)と「八木節様式」(有拍のリズム)の民謡を聴き、「こきりこ」と類似点や相違点を出し合い、それぞれのよさを味わう。	「こきりこ」の学習で学んだ日本の民謡の特徴を意識しながら聴くとともに、声の出し方やかけ声、囃し言葉などの違いや共通点を意識して聴いている。(思)	
5	考える 対話する	アイヌ民族の歌と踊りを、実際の映像を通して体験しながら、その背景にある生活やものの考え方のわりを知り、アイヌの音楽文化の特徴を味わう。	我が国に伝わる音楽の特徴や人々のくらしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。(主・思)	
6	振り返り 生かす	世界の特徴的な音楽(ホーミー・ケチャ)を映像や教師の声を見聴きしながら部分的に体験し、声や歌い方・楽器の音色や音の重なり方の特徴などの類似点や違いなどに気づけて鑑賞する。	諸外国に伝わる音楽の特徴や、それらの音楽と人々のくらしとの関わりについて興味をもち、それぞれの演奏のよさを見出して聴くことができる。(主・思)	
7				

II コーディネートの工夫

＜本時のねらい＞ アイヌの歌や踊りの特徴に気づき、表現や鑑賞を通して「アイヌの音楽文化」に親しむことができる。

課題設定	学習活動・内容（T主な発問C児童の反応）	＜コーディネートの実際＞	＜コーディネートの改善＞
課題解決	<p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師が歌うアイヌの座り歌(ウポボ)「イカムツカーサンケーイ」を聴き、思ったこと気づいたことを発表し合う。 C: 日本語ではないみたい。 C: いつもと声の出し方が違う。 C: 拍に合っている。</p> <p>「学ぶ＝まねぶ」をしながら、アイヌの人々の音楽の特徴を見つけよう。</p> <p>2 アイヌの歌と踊りの特徴を知り、歌や踊りを体験する。 (1) 映像に合わせ、動きまねながら「イカムツカーサンケーイ」を歌い、これまで歌った西洋のカノンとウポボを歌った時との違いを話し合う。 T: 気づいたことはありますか？ C: 同じ言葉を繰り返している。 C: 2つに分かれている。カノンになっている。 T: ヨーロッパのカノンと比べて違いはあるかな？ C: 声の出し方が違う。歌声がゆれている。 C: 何かを叩いていて、それに合わせて歌っている。 (2) アイヌの人々の考え方やくらしを紹介する映像を視聴する。 (3) アイヌ古式舞踊「パッタキリムセ」を見て踊り、「原瀬の太々神楽の巫女舞」と比べ、その特徴を味わう。 T: どんな生き物の動きを表しているのでしょうか？ C: かがんで大きく手を振っている。 T: バッタです。やってみましょう。 T: 巫女舞の足の動きと比べてみましょう。 C: 巫女舞はすり足で歩いている。足音がない。 T: 足を踏みならすのは悪霊を踏みしめる意味がわかります。 3 アイヌ古式舞踊(リムセ)を鑑賞する。 (1) 北海道阿寒のアイヌの人々が歌い踊る「サロルリムセ」(鶴の舞)を視聴し、感想を発表し合う。 T: どんなことに気がつきましたか？ C: 声の出し方が、鶴の鳴き声みたい。 C: 手の動きが、つばさの動きを表している。 C: 歌や動きを繰り返している。</p>	<p>＜コーディネートの実際＞</p> <p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師が歌うアイヌの座り歌(ウポボ)を聴き覚え歌い、アイヌの人々の音楽であることを知る。 T: 今日の旅先はどこでしょう？(写真を提示) C: マリモだ。北海道だ。</p> <p>湖やマリモの写真ではすぐに北海道と連想できず、アイヌの音楽ということにつながるやりとりに時間を要した。</p> <p>2 アイヌの歌と踊りの特徴を体験を通して知る。 (1) 映像を見て動きまねながら「イカムツカーサンケーイ」を歌い、西洋のカノンとの違いを話し合う。 T: 気づいたことはありますか？ C: 音楽が追いかけている。拍を打っていた。 T: 映像を見て丸ごとまねをして歌いましょう。 T: ヨーロッパのカノンと歌い比べてみましょう。 (2) アイヌ古式舞踊についてタブレットで調べ、アイヌの人々の考え方やくらしを紹介する映像を視聴する。 タブレット検索と映像視聴後、さらに教師が説明したため時間を要した。</p> <p>(3) アイヌ古式舞踊「パッタキリムセ」を見て踊り、「原瀬の太々神楽の巫女舞」と比べ、その特徴を味わう。 T: どんな生き物の動きを表しているのでしょうか？ C: にわとりかな。 C: つるだと思う。 T: バッタです。やってみましょう。 T: 6年生の巫女舞の足の動きと比べてみましょう。 C: 巫女舞はゆっくり小さく歩いている。足音がない。 T: 足を踏みならすのは、悪霊を踏みしめる意味があります。 3 アイヌ古式舞踊(リムセ)を鑑賞する。 (1) 北海道阿寒のアイヌの人々が歌い踊る「サロルリムセ」(鶴の舞)を視聴し、感想を発表し合う。 C: ツルの動きや鳴き声を表していた。 C: 踊りながら回っていた。</p> <p>4 本時のまとめと次時の学習への見通しをもつ。 T: めあての「アイヌの人々の音楽の特徴」は見つかりましたか？</p> <p>生き物などの動きをまねて、自然やカムイへの祈りを歌や踊りで表している。</p>	<p>＜コーディネートの改善＞</p> <p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師が歌うアイヌの座り歌(ウポボ)を聴き覚え歌い、アイヌの人々の音楽であることを知る。 T: 今日の旅先はどこでしょう？(マタンブシを提示)</p> <p>社会科「北海道の文化」の調べ学習と関連づけマタンブシ(アイヌ文様刺繍の鉢巻)を示し「アイヌ」だと気づかせ、めあてにつなげる。</p> <p>2 アイヌの歌と踊りの特徴を体験を通して知る。 (1) 映像を見て動きまねながら「イカムツカーサンケーイ」を歌い西洋のカノンとの違いを話し合う。 映像の視聴は社会科・総合的な学習の時間に行い、本時は児童がタブレットで調べたことを取り上げることで主体的な学びを促し、自然を表現したパッタキウポボにつなげる。 (2) タブレットでアイヌの音楽文化の特徴を調べる。 C: カムイや祖先に対して敬意や感謝の気持ちを表している。 C: 動物と人間の世界が深く関係し、動物の動きや声をまねた表現が多い。 (3) アイヌ古式舞踊「パッタキリムセ」を見て踊り、「原瀬の太々神楽」の巫女舞と比べ、その特徴を味わう。 3 アイヌ古式舞踊(リムセ)を鑑賞する。 (1) 北海道阿寒のアイヌの人々が歌い踊る「サロルリムセ」(鶴の舞)を視聴し、感想を発表し合う。 T: どのところにアイヌの音楽の特徴がありましたか？ C: ツルの動きだった。 C: ツルの鳴き声のような声を出していた。 T: なるほど。皆さんは、どう思いますか？似ている意見や違う気づき、今日の体験と合わせて考えたことなどありますか？ C: ○○さんの意見に付け加えて着物でツルの羽ばたきを表してながら回っていた。 C: パッタキリムセのように生き物の動きを表していた。</p> <p>気づいたことについての1問1答とならないよう、十分時間をかけて教師からの問い返しを意図的に行い、自然への思いが歌や踊りに表れているというまとめに結びつけていく。</p>
振り返り	<p>4 本時のまとめと次時の学習への見通しをもつ。 (1) アイヌの音楽の特徴を発表し、本時のまとめをする。 歌声が独特で、歌がカノンになっていたり、自然の動きを踊りにしたりして、自然への思いを、歌や踊りで表している。 (2) アイヌの民族楽器「ムックリ」(口琴)の音色を聴き、次時への興味をもつ。</p>	<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ アイヌ民族の歌や踊りを、映像や教師の実演を通して見て聴いて、まねをして歌い踊り、体験することができた。さらに、アイヌ民族の考え方や、衣食住、歌や踊りの意味を映像や教師の語りを通して知り、「原瀬の太々神楽」と比較することで、アイヌ民族の音楽文化の特徴に気付くことができた。</p> <p>● 活動内容を精選することによって鑑賞後の話し合いの時間を十分確保し、体験や鑑賞を通しての気づきを交流し合い、特徴や感想を納得しながら共有することで、より深い学びにつなげていくことができたと思われる。</p>	

ICT機器を活用し、お互いに見合い教え合いながら技を習得する

二本松北小学校 大槻 瑞也

I 単元構成の工夫

マット運動は、回転系や巧技系などのいろいろな技に挑戦し、自己の課題を達成する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。技を習得するためには、動きのポイントをおさえ、運動の仕組みを理解することが重要となる。器械運動は自分の動きが見えないため、児童同士で、お互いの動きを見合い、教え合う関係を築けることが有効な手段となる。その補助として、タブレットなどのICT機器を有効に活用する場面を設け、技の習得を図りたい。

児童の実態

本学級の児童は、体育の学習が楽しいと答えてる児童が34名中31名だが、領域で見ると「器械運動」に関しては、楽しいと答えた児童は3分の1にとどまる。これまでの学習でマット運動に苦手意識をもっていたり、体格の個人差・体幹の弱さ等で、自分の体を支えることが難しかったりする様子が見られる。第5学年時では、回転系の前転・後転などの技を、安定して行うことができない児童が多く見られ、発展技に挑戦できたのは、数名の児童に限られた。

単元を通して育成したい子どもの姿

タブレットなどのICT機器を活用し、マット運動の動きのポイントをおさえ、お互いの動きを見合い、教え合いながら技を習得しようとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 本単元では、マット運動の技能の習得に力を入れて単元構成をした。児童の技能に合わせ、徐々にレベルアップを図り、意欲的に活動できるようになった。また、タブレットを毎時間使い、自分たちで課題を見出し、改善を図ることができた。
- 学習カードをタブレットで記入し活用しようとしたが、思ったより時間がかかり、運動量の確保ができないと判断し手書きで短冊に書くことにした。児童の実態に合わせ、デジタルとアナログそれぞれの良さを生かしながらの学習展開を考えていきたい。

学習計画（総時数 6時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す	運動の特性を知り、自己の能力に応じた技の組み合わせ方を考えることができる。 （前転・後転・倒立回転・倒立グループ分け）	自己の能力に応じた課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を考えようとしている。 （主）（思）
2	考える 習得する 対話する	それぞれのグループに応じた基本技のポイントを確認し、お互いの動きをチェックすることができる。	回転系や巧技系の基本的な技を安定して行うことができる。（知・技）
3	考える 習得する 対話する	基本技を安定して行うことができる。基本技を生かして発展技に取り組むことができる。	基本的な技を安定して行いその発展技を行うことができる。（知・技）
4		（本時） 前時までの学習を生かし、アドバイスして互いに技を高め合うことができる。	自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 （主）（思）
5	考える 習得する 対話する	選んだ技を組み合わせることで連続技に挑戦することができる。	習得した技を繰り返したり組み合わせたりすることができる（知・技）
6	振り返る	学んだことを生かして発表会を開き、お互いの技のできばえを称賛することができる。	運動に積極的に取り組み、仲間の取り組みを認め合うことができる。 （主）（技）

II コーディネートの工夫

＜本時のねらい＞ 自分が気をつける動きのポイントを、ペアやグループで見合い、アドバイスし合いながら高め合
うことができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	＜コーディネートの実際＞	＜コーディネートの改善＞
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える (1) これまでの学習をふり返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。</p> <p>自分が気をつける動きのポイントをおさえて演技しよう！</p> <p>(3) 各自気をつけるポイントの確認</p>	<p>2 基本技の確認をする 基本技の確認の時、児童の動きがスムーズでなかった ので、動きのポイントを確認しながらやってみるこ にした。模範動画の活用の仕方確認した。</p> <p>3 ペア・グループ内での見合い C：開脚前転でうまく立っていないんです。 T：動画を見て技のポイントが分かりまし たか。 C：足を開くタイミングが早すぎるかも C：それから手の位置が離れている。 C：足は着地の直前でパッと開いたら。 T：それはいいね手の位置はどうする。 C：手は足の近くに ついてみよう。 C：跳び箱でまたぎ こすように手 ついてみよう。 T：すごいね、これ で技のポイント が分かったね。</p> <p>同質のグループ構成だったので、具体的な動きを確認 するまでには至らなかった。技量の高い児童とのペア リングも考慮するべきであった。</p>	<p>2 基本技の確認をする 模範動画再生用のパソコンを準備し、いつでも確認で きるようにする。</p> <p>3 技量の高い友達の技を見せ、動きの ポイントを考える。 T：○○さんの演技を見て、自分の演技 の動画と比べて見ましょう。ここが すごいな、これなら自分もできそう と思うところを探してみましょう。</p> <p>グループの構成を考え直し、技量に差があるグループ 構成にして、できる児童の演技を模範として、苦手な 児童も技量を高めることができるようにする。</p> <p>学習カードに、改善点を記入させる。 T：学習カードに自分の動画を見ながら ポイントをチェックして直したい所 を見つけましょう。</p>
課題解決	<p>2 基本技の確認をする T：前転の動きを模範のビデオを見て技 のポイントを確認しましょう。 C：まっすぐ回れないんだよね。 C：きれいにまわりたいな。</p> <p>3 ペア・グループ内での見合い (1) 模範動画を見て C：開脚前転の模範動画を見よう。 C：手の位置はどうかね。 C：どうしたら上手く回れるんだろう。 (確認後自分達でチャレンジ) (2) 補助具を使って C：側方倒立回転が上手くいかない T：足の高さが足りないね。 C：どうやったら足があがりますか。 T：そうだね、ゴムを張ってそれに触れ るように足を伸ばしてみたら C：やってみます。 T：友達に足の高さに手をだしてもらっ てそれに触るようにしてもいいね。</p>	<p>4 本時の学習を振り返る 一人一人の振り返りを書くのに時間がかかり、全体で 共有するまでには至らなかった。</p>	<p>4 短冊の書き方を工夫し、共有する。 目標の達成度を記号で評価し、自分の気をつけるポイ ントを書き込む欄と次時の取り組みを記入する欄を作 り、分かりやすく伝えられるようにする。</p> <p>グループでの取り組みを紹介する。 C：ぼくたちのグループはロンダートの コツをつかみました。大切なのは手 の位置とひねるタイミングです。 みなさんも挑戦してみてください。</p>
振り返り	<p>4 本時の学習を振り返る (1) めあてを達成できたか (2) 次時目指すポイントの確認 (短冊に記入し黒板に貼る) (3) 全体での共有。</p>	<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題 ○タブレットで撮影した動画を見ることは自分の動きを見て、ペアで話し合い、修正をして、 繰り返し取り組むのにとっても有効であった。 ●ICT機器はあくまでも補助的な道具であり、体育科の授業においては運動量の確保が最優 先なので、学習カードとの併用を考えた授業展開を行わなければならない。</p>	

第2学年 保健体育科「傷害の防止(交通事故の危険予測と回避)」 「保健分野」

危険予測し、対話を通してその要因と改善策を探り、判断力を育てる

二本松第三中学校 武藤 利教

I 単元構成の工夫

本単元は、交通事故や自然災害などによる傷害を防止するには、人的要因と環境要因が相互に関連して発生することを理解し、実生活への実践力を身につけることをめざしている。生徒自身の実生活と照らし合わせ、行動の想起・ふり返しをすることで自分自身の課題として捉え、また、視覚教材を活用し、危険予測の場面を課題として提示し思考する意欲を高め、主体的な課題解決へつなぎたい。さらに仲間と考えを交流することで自分では気づけなかった視点にも触れ、具体的な対策に迫らせ、実際の行動に結びつけていきたい。

生徒の実態

近年、車社会による交通事故の増加や異常気象による猛暑やゲリラ豪雨、東日本大震災の余震とみられる大規模な地震などの自然災害など、自分の身に降りかかってくる様々な驚異にさらされている。生徒はそういった危険から身を守ることは大切だと分かっているものの、実際の行動には、必ずしも結びついていない。

単元を通して育成したい子どもの姿

交通事故や自然災害などによる傷害の防止について、実生活と照らし合わせて色々な角度から傷害の要因とその改善策を探り、実践する姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 最初の学習で単元計画の見通しをもたせ、そこから様々な危険を予測しながらその対応を考えさせた。そして、実際に包帯法や止血法、心肺蘇生法などの体験を通して、傷害の防止について実践することができた。
- 「傷害を防止する」ことを自分事として捉えさせるため、実生活を想起させる場面・状況設定が必要である。例えば、「事故の加害者になってしまったら…」「将来、社会人になって車を運転して事故を起こしてしまったら…」等々の設定を投げかけていくことが考えられる。


学習計画（総時数 8 時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す対話する	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について話し合う。	人的要因や環境要因が関わって発生することを具体的に説明できる。(思・判・表)
2	考え対話する	傷害の防止に関わる事項や情報を整理して、未然防止策を話し合い、考える。	
(本時)	考える対話する	交通事故などによる傷害を防止するために、危険を予測してそれぞれの要因に対して適切な対策を考える。	自分達の生活と関連付け、具体的な課題や対策について説明できる。(思・判・表)
4	考える対話する	自然災害発生時に、傷害を引き起こす様々な危険を予測し回避するための対策を考える。	自然災害発生時と二次災害による傷害があることを理解できる。(知)
5	考える対話する	自然災害への備えと傷害の防止のために必要なことを検討し、発表する。	自他の安全を確保するために冷静かつ迅速な行動について記述できる。(知)(判・表)
6	習得する	包帯法や止血法の実習を行い、知識や技能の技能を身につける。	包帯法や止血法を理解し、実践できる。(知)(思・判・表)
7	習得する	心肺蘇生法について理解し、胸骨圧迫やAEDの使用などの心肺蘇生法ができる。	胸骨圧迫やAED使用など実践できる。(知)(思・判・表)
8	ふり返る	傷害の発生した場面やケガの状況に適した応急手当の方法や手順、危険予測や回避方法について考え、グループで話し合う。	その場面に即して改善点や根拠をあげて説明できる。(思・判・表)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 様々な状況を的確に捉え、危険を予測することにより、危険を回避できる方法を考えることができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)
課題設定	<p>1 前時までの学習をふり返る。 (1) 写真から分かることを発表させる。 (2) 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>交通事故を防ぐためには、どんな対策が必要だろうか</p> </div>
課題解決	<p>2 危険を予測し、回避方法を考える。 T: この場面では、どんな危険が予測されますか。 C: 親子で歩いているが、子どもが急に飛び出してくるかもしれないので、子どもの動きに注意してゆっくり進みます。</p> <p>3 内容をグループで話し合う。</p> <p>4 各グループで話し合った内容を全体に発表する。</p> <p>5 同じ写真でさらに状況が変わった場合について、さらに考える。 T: このように状況が変化したら、さらにどんな危険が増えますか。危険を回避するためには、どうしたらよいでしょうか。 C: 突然の降雨により、視界不良になり危険がますます、より安全に運転しようとする。</p>
振り返り	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>危険を予測し、それぞれの要因に対して、適切な対策を行えば、交通事故や事故による傷害を防ぐことができる。</p> </div>

<コーディネートの実際>	
<p>2 危険を予測し、回避方法を考える。 T: この場面では、どんな危険が予測されますか。 C: 迷っているうちに、交差点から人や車が出てきて衝突するかもしれません。 C: ブレーキの効きが悪いので、急に止まれないかもしれません。</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>各班に違う場面の写真を提示したため、全体的話し合いが深まらなかった。</p> </div> <p>T: 回避する方法や改善策はどうですか。 C: 相手が止まってくれると思わず、一時停止をし確認してから走行する。</p>	
<p>5 同じ写真でさらに状況が変わった場合についてさらに考える。 T: この状況で雨が降り出したらどうですか。 C: 急いで帰ります。 T: スピードを出して帰るのですか。 C: ……</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>教師と生徒の1対1のやり取りになってしまい全体に広げることができなかった。</p> </div>	
<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・周りの状況に気を配る。先を見て行動する。落ち着いて安全確認する。予測して安全に行動する。</p> </div>	

<コーディネートの改善>	
<p>2 映像を見て危険を予測し回避方法を考える。 T: この後、どうなると思う。 C: 交差点から人や車が出てきて衝突する。 C: ブレーキの効きが悪いので、急に止まれない。 T: どうすれば良かったですか。 C: 一時停止して安全を確認する。</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>全体で映像を一時停止し危険を予測させることでイメージをもちやすくなる。</p> </div>	
<p>3 状況が変わった場合について、さらに考える。 T: 最近、雨の日が多いので、この状況で雨が降り出したらどうしますか。 C1: 雨が降ってきたら急いで帰ります。 T: 他には。 C2: 急いで帰るとあせったり、すべったりして危険だと思います。 T: では、どうしますか。 C3: 迎えに来てもらいます。 T: 自分の通学路ではどうですか。 C4: 自力で帰らなければならない時は、いつも以上に周りを見て、安全に気をつけます。</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の通学路をふり返り、実生活を想起させることで実践力につなげる。</p> </div>	

「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題
 ○個人の意見を書く→グループでの内容検討→学級全体の広がり、このような流れから共有するとともに多角的な意見を聴き、まとめ、思考を深めることができた。
 ●1対1の対話で生徒の意見を取り上げることが多かったのが、例題の数を焦点化した上で意見を取り上げたり、生徒同士をつないだりするとさらに思考が深まったと思われる。

第6学年 体育科(保健領域)「病気の予防」

自己の生活をふり返り、健康な生活を実践する力を育てる

大平小学校 塩田 味江

I 単元構成の工夫

本単元は、児童が自ら生涯にわたって健康的な生活を送るために、病気の発生要因や予防法を正しく理解し、健康の保持増進のための具体的な方法を考えたり、実践意欲を高めたりすることを目指している。

自己の生活をふり返り、グループ活動で意見を交わし合ったり、一緒に考えたりすることで、自分の生活習慣の課題に気づかせ、生涯健康な生活を送るために、今からできることは何なのかを考えさせたい。

児童の実態

4～6年生は、毎年度初めに【自分手帳】を活用し、「健康な体づくり」や「健康な生活を送るため」の目標を親子で考えている。また、学校では毎週1回「健康生活しらべ」により自分の生活をふり返り、健康な生活を送る意欲をもたせる機会としている。自己の健康課題に気づき、改善に向けた目標を立てているが、なかなか改善にはつながらない状態である。

単元を通して育成したい子どもの姿

病気の予防や回復について理解し、自分の生活のふり返りから自己の課題に気づき、健康な生活を送るための実践力を身に付ける。

「単元構成の工夫」における○成果と●課題

- 単元前半では、病気についての知識を学んだ。その後、生活習慣病や喫煙・飲酒などの害についてロールプレイングを交えて自分事として捉えさせたことにより、自分の生活を改善する必要性を感じ、実践への意欲が高まった。
- 単元で得た知識を自分事と捉え、生活改善への意欲が一過性のものではなく、実践し続けることができるよう工夫していきたい。

指導計画（総時数8時間）

時	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力
1	見通す	病気の起こり方について考える。	病気は「病原体」「環境」「生活行動」「体の抵抗力」が関わり合って起こることを理解する。(知)
2	考える	病原体が原因となって起こる病気の感染経路を知り、具体的な予防方法を考える。	感染症の予防には「病原体をなくす」「感染の道筋をたち切る」「抵抗力を高めておく」が必要だと気付く。(知)
3 (本時)	考える 対話する	生活習慣が原因となって起こる病気を知る。 ロールプレイングにより、予防するためにはどのような生活をすればよいかを考えたり、話し合ったりする。	生活習慣に起因する病気について理解する。 (知) 自分の生活をふり返りながら、望ましい生活習慣について考えている。 (思・判・表)
4			むし歯や歯周病の起こり方を知る。(知) 自分の生活習慣を改善しようとしている。 (思・判・表)
5		喫煙・飲酒・薬物乱用の害を理解する。	喫煙・飲酒・薬物乱用は健康を損なう原因となることを知る。(知)
6		ロールプレイングにより、勧められた時の適切な対処方法を考えたり、話し合ったりする。	喫煙・飲酒・薬物乱用を勧められた場合の対処方法を考えたり、判断したりできる。 (思・判・表)
7			
8	振り返る	地域ではさまざまな保健活動が行われていることを知る。	地域で行われているさまざまな保健活動を知り、自分の生活に生かそうとしている。 (知)(思・判・表)

II コーディネートの工夫

＜本時のねらい＞ 生活習慣病の原因と予防法を理解し、健康に良い生活習慣を身につけようとする事ができる。

	学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)	＜コーディネートの実際＞	＜コーディネートの改善＞
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。 (1) 既習事項を確認する。 (2) 本時の学習課題を知る</p> <p>生活習慣病を予防するには、どうすればよいでしょうか。</p>	<p>2 保健室に来室時の様子を教師がロールプレイングし、身近なこととして考えるヒントにする。</p> <p>T: とも君のような生活を続けると、体の中ではどんなことがおきると思う？</p> <p>C: 病気になるかも</p> <p>T: そうだね。体の中では・・・</p> <p>①正常な血管と病変血管。②脂肪の塊 1 kg</p> <p>教師の発問が具体的ではなく、イメージすることが難しかったため、児童の思考が広がらなかった。</p>	<p>2 保健室に来室時の様子を教師がロールプレイングし、身近なこととして考えるヒントにする。</p> <p>T: とも君のような生活を続けると、どうなる？</p> <p>C: 病気になる。</p> <p>T: どんな病気になっちゃうの？</p> <p>C: がん。心臓病。血管の病気。</p> <p>T: それって、日本人の死亡の原因トップ3だったよね。</p> <p>児童が思考しやすい発問の工夫をする。</p>
課題解決	<p>2 生活習慣病にならないためには、今の生活をどうしたらよいか考える。 ＜グループで話し合い、発表する。＞</p> <p>T: 具合が悪くて保健室にきたとも君の生活の様子から、生活習慣病になる心配があると思うところを見つけましょう。</p> <p>C: 朝ごはんがオレンジジュースだけ。寝る時間が遅く朝寝坊してしまう。寝る前におやつを食べている。野菜嫌いで肉が大好き。食べ過ぎ。</p> <p>3 自分の生活の改善方法を学習カードに記入し、発表する。</p> <p>C: 好き嫌いがあるので嫌いなものから食べる。</p> <p>C: スマホをやりすぎるので時間を決める。</p>	<p>3 自分の生活の改善方法を学習カードに記入し、発表する。</p> <p>T: 自分の生活の仕方では、改善した方がよいことを、「運動」「食事」「休養・すいみん」という言葉を入れて学習カードに記入しましょう。</p> <p>考えの焦点化を図るために、「運動」「食事」「休養・すいみん」の3つの要素を告げたが、実生活と照らし合わせた思考にむすびつかなかった。</p>	<p>3 自分の生活の改善方法を学習カードに記入し、発表する。</p> <p>T: とも君このままだと大変なことになるね。みんなの生活はどう？将来、体をこわして死んじゃったりしないためにこれから直したいことを考えてごらん。</p> <p>C: ゲームの時間を減らしたい。</p> <p>T: なんで悪いの。</p> <p>C: 睡眠不足になるから。</p>
振り返り	<p>4 本時のまとめをする</p> <p>適度な運動，栄養のかたよりのない食事，十分な休養・すいみんなど，健康に良い生活習慣を子どものころから身につける必要があります。</p>	<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ 保健室に来室時の様子を教師がロールプレイングをし、身近なこととして原因を真剣に考え感じさせることができ、グループの中で自分の考えを伝え合うことができていた。</p> <p>● 子どものいままでの経験値では、体内の変化への気づきへとつなぐ事が難しかったため、発問の工夫が必要であった。</p>	

第6学年 外国語科 “Unit3 Let's go to Italy.” 「話すこと[やり取り]」

やり取りを通して、相手に分かりやすく伝える力を育てる

二本松南小学校 菅野 香代子

I 単元構成の工夫

本単元で児童は、自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、行ってみたいおすすめの国や地域とその理由について、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりする活動をする。そこで、単元のゴールを「旅行会社に行って自分の行きたい国のツアープランを作る」とし、単元全体の見通しをもって学習に取り組むことができるようする。必然性のある活動場面を設定し、必要な表現を理解したり、身につけたりして、自分の考えや気持ちを伝え合う力の向上を図りたい。

児童の実態

児童の多くは外国語科の学習に楽しんで取り組み、昨年度からの学習経験から、「伝えたい」「もっと話したい」という思いをもち、ALTや担任に英語での表現方法を積極的に質問し、表現しようとしている。一方で、恥ずかしさや照れ、自信のなさからなかなか声に出して表現するまでには至っていない児童もあり、個人差が大きい。

単元を通して育成したい子どもの姿

「おすすめの国のリーフレット」を作って友達に話したり、その理由を伝え合ったりする活動を通して、自分のことを伝え、相手のことをよく知り、互いに学び合うよさを実感する姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 必然性のある活動場面を設定したことで、目的意識をもち、単元を通して意欲的に取り組むことができた。
- 音→会話→コミュニケーション→広げるの流れで単元を実践した。徐々にハードルを上げて「やってみたい、話してみたい」と思えるような展開にすることで子どもたちは意欲的に取り組み、様々な国の言葉や文化を知りたいと意欲的に活動した。
- 児童がやり取りに必要な表現を理解したり、身につけたりできるようにするために、ALTとの連携を密にし、具体的に単元の流れを共有しておく必要がある。

学習計画（総時数8時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	音に出会う	単元のゴールを知るとともに、世界の有名な建物や食べ物などについて言ったり、音声や映像から分かったことを発表したりする。	世界の有名な建物や食べ物などについて、短い話の概要を捉えようとしている。 (主)
2	Starting Out		～ is …, You can ～, It's ～ およびその関連語句などについて理解することができる。 (知・技)
3	会話に慣れる	「国」や「食べ物」の言い方を練習し、おすすめの本国や地域と、その理由についてたずね合う。	Why do you like ～?, You can ～, It's ～ およびその関連語句などについて理解することができる。 (知・技)
4	Your Turn	社会科の地図帳やタブレットなどを使って、行ってみたいおすすめの本国の有名なものを調べ、おすすめの本国の理由をたずね合う。	行ってみたいおすすめの本国や地域と、その理由について、お互いの考えや気持ちを表すことができる。 (思・判・表)
5・6 (本時)	コミュニケーションを楽しむ	「おすすめの本国のリーフレット」を作って、その国でしたいことを伝えながらやり取りをする。	行ってみたいおすすめの本国や地域とそこでしたいことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。 (思・判・表)
7	Enjoy Communication	「自分の行きたい国のツアープラン」を作るために、行きたい国でできることを発表したりたずねたりする。	行ってみたいおすすめの本国や地域とその理由について、簡単な語句や表現を用いて、お互いの考えや気持ちを話することができる。 (思・判・表)
8	世界を広げる Over the Horizon	知っている日本の世界遺産や、行ってみたい世界遺産について発表する。	世界遺産について、簡単な語句や表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。(主)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 行ってみたいおすすめの国や地域とそこでしたいことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
課題設定	<p>1 あいさつをする。 2 本時のめあてをとらえる。 C: 友達の言ったことについて、リアクションもしたい。</p> <p>行ってみたい国でしたいことを伝えるために、どんなやり取りをすればよいただろう。</p>	<p>3 教師とALTのモデル会話を見る。 T: 今日は、こんなやり取りをしたいんです。</p> <p>教師とALTのモデル会話のあと、繰り返し練習しやり取りをしたので、自信をもって取り組むことができたが、前時までに学習したことを、その場に合わせ分かりやすく適切に使うという場面設定ではなかった。</p>	<p>3 行きたい国インタビュー①を行う。 T: 前の時間までに学習した表現を使って、インタビューをしてみよう。 T: うまく伝えられましたか。どうすれば分かりやすく伝えられるかな。 C: クリア ボイスで言うといい。 C: 相手の目を見て言うといい。 C: 相づちを打つといい。</p> <p>相手に分かりやすく伝えるための視点を子どもたちと考え、次のやり取りに生かすことができるようにする。</p>
課題解決	<p>3 教師とALTのモデル会話を見る。</p> <p>T・A: Hello. T: Where do you want to go? A: I want to go to Italy. T: What do you want to do? A: I want to eat pizza. I want to see the Colosseum. T・A: Thank you. Bye.</p> <p>4 行きたい国インタビューをする。 T: 友達とのやり取りで、よかったことはありましたか。 C: リアクションをしていた。 C: 聞き返していた。 C: はっきり言っていた。</p>	<p>4 行きたい国インタビューをする。 T: 友達のやり取りの様子を見てみよう。どんないいところがあったかな。 C: It's delicious. と付け加えていた。 C: クリア ボイスで言っていた。 T: では、参考にしてもう一度やり取りしてみよう。</p> <p>やり取りの様子を動画に撮影したものをテレビに投影し、リアクションや相づちを付け加えたやり取りを確認した。友達のよさに気づき、自分にも取り入れる姿が見られた。</p>	<p>4 会話の質・量を高めた行きたい国インタビュー②を行う。 T: ○○さんのやり取りを見よう。 T: よかったところを参考に、みんなもやり取りしよう。</p> <p>友達の表現のよさを取り入れ、自分の表現を修正・付加・発展させることができるようにする。</p>
振り返り	<p>5 本時のまとめをする。 ・まとめ</p> <p>What do you want to do? I want to see (eat) ○○.</p> <p>・振り返りカードの記入</p>	<p>5 本時のまとめをする。 T: カードに今日の振り返りをしましょう。 C: 友達のおすすめの国でしたいことが分かった。</p> <p>振り返りが、やり取りの感想や反省の言葉になっていた。</p>	<p>5 本時のまとめをする。 T: 「何がきっかけで自分の表現が変わったか」「何が分かったか」「次はどうなりたいか」など、ふり返って書こう。 T: 友達の「振り返り」を見に行き、いいところやまねしたところに付箋を貼ろう。 C: 「次は○○さんのように書こう！」</p>
<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ 他のペアのやり取りを確認することにより、自分たちのやり取りと比較し、客観的にふり返り、よりよい「やり取り」を考えるきっかけになった。</p> <p>● 本時の振り返りの表現が、次時のめあてにつながるようにするために、学びのねらいに対する振り返りを書くことができるようにする。そのために、児童に振り返りの視点を示し、焦点化して書くことができるようにしていく必要がある。</p>			

主体的な学びを促す録画を利用した振り返りの工夫

岩代中学校 増子 美保

I 単元構成の工夫

本単元は、朝美とメグが将来について話し合ったり、朝美が自分の職業体験のレポートをまとめたりして、これからの社会や自分の将来像について考えを深めるという設定である。メグがインターネットで見つけたAIに関する記事から始まり、将来についてメグと朝美との対話や朝美の職業体験レポートなどが紹介されている。様々な職業分野における活用が検討されているAIによる社会変化について考え、朝美の職業体験レポート内容を共有することで、自分の将来や夢について考えを深めていく。単元前半では言語材料の習得を、単元後半では「伝え合う」「対話する」「報告する」「発表する」などの言語活動を展開し、表現力の育成を図りたい。

生徒の実態

英語学習には前向きに取り組み、男女分け隔てなくコミュニケーション活動を楽しむ。しかし、基本的な語彙力や文法の知識が不足している生徒が一定数いるため、目標とした活動が成り立たない場面も見られるため、個別の活動よりペアや小集団学習がより適していると考えられる。また、間違いを恐れて発言を控える傾向があるため、準備時間を十分確保された活動を好む。

単元を通して育成したい子どもの姿

習得した言語材料を使って、自分の将来像や夢について述べる際相手意識をもって、よりよく伝えようとする自分の姿をセルフモニタリングし、他者との対話を通して修正・付加・発展させ、完成まで工夫を積み重ねる姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題


○前半に習得した学習内容を後半で活用させる単元構成としたため、後半から積極的に既習事項を使い、自分で考えた内容を相手に分かるように表現していた。また、タブレットを使うことで発音を確認しながら発表することができ、以前にも増して活発な発表ができた。
●単元前半で習得した学習内容を単元後半で活用させ「思考・判断・表現」させる指導計画であるが、その活用場面で躓いた生徒がもう一度習得場面に戻って振り返る時間を設定できるとよい。

学習計画（総時数 8 時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す 習得する	自分がよく行く場所について「…するために、そこに行きます。」という文章を数多く作成し、相互にその場所を言い当てる。	動作や行為について、それをする目的を理解したり伝えたりすることができる。（知・主）
2	習得する	自分がうれしいと感じることを想像し、「…してうれしかったです。」のような文章を数多く書く。	うれしい等の気持ちとその原因を理解したり伝えたりすることができる。（知・主）
3 (本時)	考える 対話する	将来の夢や夢実現のためにしていることを、相手に自分のことをよりよく分かってもらえるように、ペアになって伝え合う。	お互いの夢や夢実現のためにしていることについて情報を整理して伝え合うことができる。（知・主）
4 ～ 5	考える	自分が興味を持っていることについて述べ、どのようなことをすればそれが自分の強みになるか、他の生徒からアドバイスをもらい、それを参考に英語で書く。	仕事内容についての文章の概要を捉え、情報を加えて説明することができる。（思・主）
6 ～ 7	振り返る 考える	コンピュータやAIを活用するうえで、自分自身が重要だと思うことを英語にし、発表する。発表を聞く生徒は、よりよく伝えていることを賞賛する。	今後の社会を想像し、自分の将来像等について考え、すべきことについて伝えることができる。（知・主）
8	考える	職業体験に行った人のレポートを読んで職業体験の内容をペアで話し合い、グループで発表する。	自分の体験を伝えるために、事実や意見を整理して、尋ね合ったり伝えたりすることができる。（知・主）

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 将来の夢についてのインタビュー活動を通して、お互いの夢や夢実現のためにしていることなどについて情報を整理して、相手意識をもって伝える。

学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)	<コーディネートの実際>	<コーディネートの改善>
<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文法事項 (to 不定詞) の確認 本時の課題把握 <p>「あなたの夢は何ですか」というテレビ番組のインタビューで、こういったやりとりをすればよいだろう？</p> <p>2 課題解決の見通しを持つ。</p>	<p>3 課題に取り組む。</p> <p>(1) 2人ペアでインタビューを考える。 T: インタビュー内容を考えてください。 C: その仕事に就いたきっかけは何ですかって聞きたいんですが、きっかけって何て言うんですか？ C: (タブレットで確認して) いっぱいあるけど、どれだろう？ C: 先生、きっかけって start.impetus.cue motive のうちどれを使えばいいんですか？</p> <p>番組を見る対象(相手)を設定していなかったために、難しい言葉や敬語を調べ始めた。</p> 	<p>3 課題に取り組む。</p> <p>(1) 2人ペアでインタビューを考える。 T: 30秒でインタビュー内容を考えてください。番組はお昼の放送で流すので、1年生にも分かるような表現を使うように心がけましょう。 C: きっかけってどう言えばいい？ C: どうしてなりたいたいんですかって聞けばいいじゃない？ C: それなら、Why do you want to become だったらどう？</p> <p>場面設定を明確にすることにより、相手意識を働かせることができる。</p>
<p>3 課題に取り組む。</p> <p>(1) 2人ペアでインタビュー番組を制作する。 T: インタビューする立場の人はどのようにインタビューしますか。インタビューされる立場の人はどのように答えますか。ペアで考えよう。 (2) やりとりをタブレットに録画する。 (3) 録画したものを確認する。</p>	<p>C: 先生、まだできていません。 T: とりあえず、考えたところまでやってみよう。はじめましょう。 C: What's your dream? C: My dream is I want to be MR.ん？おかしくない？ My dream is MR. C: え？終わり？短いよね？</p> <p>初めから英語で考えるのは難易度が高く、完成させるには時間を要する。</p>	<p>(2) やり取りをタブレットに録画する。 T: 日本語でもいいので会話の流れを作りましょう。</p> <p>インタビューの流れだけでも考えておくことで見通しを持たせて次の活動に入る。</p>
<p>4 課題を解決する。</p> <p>(1) 各ペアのインタビューがどんな内容になったか全体で確認する。 C: うまく質問が繋がらなかった。 T: どうしたらよいだろう？ C: 相づちを打ったり、つなぎ言葉を使う。 T: 始まりと終わりはどのように始めたら良いかな？</p>	<p>5 本時を振り返る。 T: 今日の授業を振り返ります。授業を通して学んだことや考えたことを自己評価カードに記入しましょう。</p>	<p>5 本時を振り返る。 T: 今日の授業を振り返ります。今日の活動で自分がよくできたと思うところはどこですか？振り返りシートに具体的に書いてください。何がきっかけでできるようになりましたか？他の場面でも使えそうな学びはありましたか？</p> <p>振り返るときは、教師が机間巡視し、のびているような子の活動を見取って、それを全体に発表させ、認め合うことでプライドを持って次の学習意欲を持たせる。</p>
<p>5 本時を振り返る。</p> <p>友達の表現を見て自分の活動に取り込めるような表現にはどのようなものがありましたか？</p>		

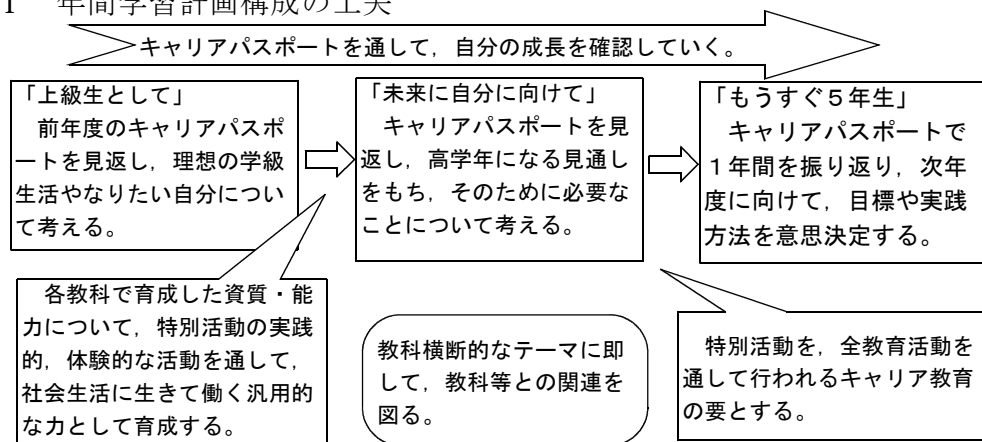
「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題
 ○まず表現してみて、それをセルフモニタリングすることで、さらに良いものに変えていこうと意欲的に活動する姿が見られた。
 ●振り返りの時間は、何をどう振り返れば生徒たちが伸びていくのかという視点をもって仕組んでいく必要がある。

第4学年 学級活動「未来の自分に向けて」
「(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」

自分の成長と課題を振り返り、主体的に行動しようとする態度を養う。

東和小学校 大和田 樹

I 年間学習計画構成の工夫



児童の実態
 1人1人の関心事には意欲的であるが、集団では主体的に活動することができず、高学年に進級することへの意識が希薄である。

単元を通して育成したい子どもの姿
 自己の生活や学習の課題を見だし、解決のために意思決定しながら、自己のよさを生かして主体的に行動しようとする姿

「年間指導計画構成の工夫」における ○成果と●課題

○ 定期的にキャリアパスポートを見返すことにより、自分の確かな成長を実感するとともに、自分の課題を解決するために、自信を持って活動しようとする姿が見られるようになった。


● 子どもたちがキャリアパスポートを見直す機会を増やしていきたい。年度初めや年度末、学級活動(3)の授業だけでなく、月や隔週に一度というように、定期的にキャリアパスポートを見直す機会を設けた方が、記録を積み重ねていくことができ、自分の成長を捉えやすくなる。

年間学習計画 (総時数 6 時間)

時	場面	児童の活動 (夢中になって学んでいる姿)	資質・能力
1	上級生として	理想の学級生活・なりたい自分に近づくために、どのようなめあてにすればよいかを考え、話し合う。	なりたい自分に向けて、自分のめあてを意思決定することができる。 (思・判・表)
2	みんなのためになることをしよう	学級全体や友達のために、自分はどのようなことができるのかを考え、話し合う。	みんなのために、自分ができる行動を意思決定することができる。 (思・判・表)
3	家庭学習の習慣化	家庭学習における自分の課題を知り、なりたい自分に向けて、家庭学習で頑張ることができそうなことを話し合う。	将来への見通しをもち、そのための学習方法や行動の仕方を意思決定することができる。 (思・判・表)
4	情報モラル教育	複数のサイトを比較し、信用できる情報を判断するなど、正確な情報を得るための方法を考える。	インターネットで正確な情報を得る方法を身につけることができる。 (知・技)
5 (本時)	未来の自分に向けて	なりたい高学年に向けて、自分の良さを生かせる取り組みについて話し合う。	自分が目指す高学年になるための方法を意思決定することができる。 (思・判・表)
6	もうすぐ5年生	1年間を振り返り、自己のよさを確認して、5年生に向けて今からできそうなことを話し合う。	なりたい5年生に向けて、自己実現の見通しをもつことができる。 (思・判・表)

II コーディネートの工夫

＜本時のねらい＞ 高学年になっていくための見通しをもち、そのために必要なことについて話し合うことを通して、自分に合った具体的なめあてを立てることができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)	＜コーディネートの実際＞	＜コーディネートの改善＞
課題設定	<p>I 自分たちの成長を振り返り、5年生になるにあたっての自分たちの課題について話し合う。 T：4年生になってどんなことができるようになったかな。 C：4年生でできるようになることは多い。 C：しっかりとした5年生になれるかな。</p> <p>なりたい5年生になるために、自分が取り組むことを決めよう。</p>	<p>I 自分たちの成長を振り返り、5年生になるにあたっての自分たちの課題について話し合う。 T：みなさんがどのくらい成長したり、どのように変わったのか、映像を見てみましょう。(振り返った結果をまとめたものをプロジェクターで見る。) C：たしかに、忘れ物しなくなったよなあ。 C：私も漢字や計算が分かるようになった。 C：学習面や生活面で頑張っている人が多いよね。</p> <p>キャリアパスポートを振り返った結果を見せ、子どもたちのつぎやきを聞くだけになってしまった。</p> 	<p>I 自分たちの成長を振り返り、5年生になるにあたっての自分たちの課題に気付かせ、児童同士で共有させる。 T：〇〇さんはどんなことができるようになったかな。 C：□□ができるようになりました。 T：〇〇さんと同じだと思っている人はいるかな。はい、△△さん。 C：僕も3年生の頃より□□ができるようになった。 C：先生、僕たちって、できることが多くなっていたんだね。</p> <p>子どものつぎやきが聞こえたら、その場で立ち止まり、できるようになったことを全体で共有する。そして、「自分たちはこんなに成長したんだ」と気付かせる。</p>
課題解決	<p>2 5年生になったら、どんなことをがんばっていきたいのか話し合う。 T：5年生になったら、どんなことをがんばりたいですか。 C：宿泊学習・学び合い・協力し合い</p> <p>3 5年生が活躍していた場面の写真や動画を見る。 C：5年生ってこういうことをするんだ。</p> <p>4 どんな5年生になりたいか。そのためにはどんなことが必要かを話し合う。 T：自分がなりたい5年生になるためにはどんなことが必要でしょうか。 C：けじめのついた生活をする。 C：時間を守る。時計を見て行動する。 C：委員会活動等について、下学年の子に教える。</p>	<p>T：では、アンケートの結果をしてみよう。 C：高学年になることが「半分楽しみで半分不安」って回答している人が多い。 T：「楽しみ」、「不安」と回答しているそれぞれの理由は・・・(理由を見る。) C：宿泊学習や家庭科を楽しみにしている人がたくさんいるね。 C：でも、学習面や生活面で不安に思っている人が多いよ。</p> <p>1人1人の不安なことや悩みを聞くだけになってしまっていた。</p>	<p>T：アンケートの結果をしてみると、不安だと感じている理由が「□□だから」という人がいます。同じ気持ちの人はいますか。 C：はい。私も□□という理由ですごく不安です。私だけじゃなかったんだ。 C：高学年になるのは不安だという人は結構多いな。どうすればいいかな。</p> <p>不安や悩みをその場で共有させることで、課題に向き合おうとする意識をさらに高める。</p>
振り返り	<p>5 5年生になるまでに、自分が実践することを決め、伝え合う。 T：これから5年生になるまでに、自分が実践していくことを決めましょう。 C：友だちと協力して課題を解決していきたい。 C：相手の目を見て、しっかりと話を聞きたい。</p>	<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ 導入の段階で自分達の成長を確認したことが自信につながり、課題に向き合う際の意欲の向上につながっていた。</p> <p>● キャリアパスポートを振り返った際や、アンケートに回答した際の子どもの意見を数多く紹介したため、時間がかかってしまった。子どもたちに紹介する内容は精選し、キャリアパスポートやアンケートを振り返る時間を短縮すべきであった。また、互いの意見を交流する場を設けた方が、より深く成長や課題の確認ができたと考えられる。</p>	

特別支援(知的)学級 第3学年国語科「山小屋で三日間すごすなら「A話すこと・聞くこと」

出し合った考えを視覚的にわかりやすく提示する支援により、考えを比べたりまとめたりしながら話し合う力を育てる

岳下小学校 平山 真由美

I 単元構成の工夫

本単元は、「山小屋で三日間すごすなら」どんな持ち物を持って行くかを話し合う。まず、考えを出し合う“広げる”話し合いをし、次に、考えを集約し目的に応じて“まとめる”話し合いに進んでいく。そこで、教科書の挿絵や野外活動で使用する道具のイラストを提示したり、決めることの空枠を示したりすることで視覚的に話し合いの目的や内容を意識させていく。さらに、話し合いに合わせて、貼ったカードを動かす等をして、話し合いの内容が見てわかるようにする。これら支援を通して友だちや教師と話したり聴き合ったりすることに興味や意欲を持ちながら参加して、みんなで決めることができたという経験をさせたい。

児童の実態

朝の会や帰りの会などで、自分がしたことやその感想を簡単な話型で話すことはできるが、問いに応じて受け答えをすることは難しい。また、意欲的に発言できるが、友だちの発表に耳を傾けたり聞き続けたりすることは難しいことが多い。また、視覚的な情報で理解が進む一方、その情報量が多いと混乱してしまう。

単元を通して育成したい子どもの姿

自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いて、その考えを比べたりまとめたりする話し合いを通して“みんなで決めることができた”という達成感を感じることができる姿。

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題


- 挿絵・イラスト・枠等の視覚的な情報を参考にして、自分の考えをもち、話し合いに参加することができた。
- 「必要性」と「兼用できるか」を視点として明確に提示することで、絞り込む話し合いができ、みんなで決めることができたという達成感を感じた。
- 児童が発言し話し合いが進む中、その内容を理解することが難しくなり黙ってしまう児童が出た。発言内容と話し合いの進行状況の理解を促す手立てを検討する必要がある。

学習計画（総時数 3 時間）

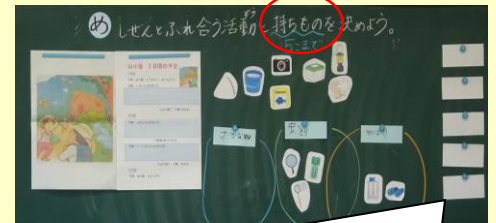
時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す 考える	話題(しぜんとふれ合うなら、どんな物を持っていきたいか)を決める話し合いを行うことに興味をもつ。 「しぜんとふれ合う活動」・「持っていきたい物」を考えて短冊に複数書き出す。	目的を意識して、友だちや教師と一緒に話し合いに参加することに意欲をもつ。 (主)
2	対話する 考える	短冊(カード)をもとに考えを出し合う。友だちの話に興味を持ち聞いている。 短冊(カード)を動かしながら、考えを比べたり分けたりしている。	相手を見て聞いたり話したりしながら、話し合いに参加しようとしている。(主) 友だちや教師と一緒に考えを比べたり分けたりすることができる。 (知・技)
3 (本時)	対話する 振り返る	「しぜんとふれ合う活動」・「持っていきたい物」を、友だちと話し合って決めようとしている。 決まったことを確認し学習を振り返る。	決めることを意識しながら友だちや教師と一緒に話し合いを進めることができる。 (思・判・表)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい>みんなで話し合い、「しぜんとふれ合う活動」や「持っていききたい物」を決めることができる。

学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)	
課題設定	1 本時の学習課題を捉える。 (1) 前時に整理した短冊を見直す。 (2) 本時のめあてをつかむ。 「しぜんとふれ合う活動」と「持っていききたい物」を話し合っ て決めよう。 (3) 課題解決の見通しをもつ。
	2 考えを出し合い、短冊を貼る。 3 「しぜんとふれ合う活動」3つ、「持っていききたい物」5つを話し合 いで決める。 
課題解決	4 本時のまとめをする 『しぜんとふれ合う活動』魚つり・虫とり・木のぼり 『持っていききたい物』 つりざお・魚のえさ・カメラ・虫かご・軍手 振り返りを書く。

<コーディネートの実際>	
2	考えを出し合い、短冊を貼る。 児童から持ち物は、全部で12個提案された。 貼り出されたイラストを見て軍手と虫かごが重複しているに気付いた。 T:「持ち物は何個になりましたか。」 C:「7個。」 C:「分かった。Cちゃんグループは、そのグループでやればいい。」 T:「違うよ。みんなで5個の約束だったよ。」
	「持って行ける持ち物は5個」という話し合いの条件が十分に共有されていなかった。 児童B: 黒板のイラストを見ながら話を聞いてはいるが反応がうすく、発言もうなずきもなかった。
3	「しぜんとふれ合う活動」3つ「持っていききたい物」5つを話し合 いで決める。 *児童Cは自分で提案したバケツも持っていきたく と主張し持ち物を絞り込むことが難しくなった。 T:「バケツと虫かごの違いは何かな。」 C:「水入ってなければいいんじゃないの。洗って使え ばいいんじゃないの。Bちゃんの虫とりに使って、そ したら洗ってCちゃんの魚とりに使えばいいじゃな い。ふたをとればね。」 T:「ということは、これ(バケツ)がなくても、(バケツ に)限らなくてもいいってこと。」 C:「うん。」(児童A:拍手)(児童C:うなずく)
4	本時のまとめをする。 【児童の振り返りの記述】 児童A: はなしをしたのしかった。 児童B: つかえるかつかえないかかんがえて楽しかった 児童C: あたしは、みんなでかんがえをいけんしました。 たのしかったです。

<コーディネートの改善>	
2	「持っていける持ち物は5個」を見て確認できるように工夫する。 
	条件に○を付けて強調し、枠上に「持ち物」枠隣に「①②③④⑤」と記し条件を把握しやすくする。
3	“言葉でのやりとり”が苦手な児童Bが話し合いに参加できるように、視覚的情報を加えて支援する。 T:「Bさん、ここを見てごらん。」 (話題となっている持ち物を指さす。) T:「Bさん、Aさんは虫かごをバケツ代わりに使えるんじゃないのかなって言っているけど、どうかなあ。」 (実際に虫かごのふたを取ってみせる。) 児童B:「下の部分には、水が入れられる。」
4	児童の振り返りを生かし、児童の取り組みを称賛する。 児童A:「話をして楽しかったです。」 児童C:「あたしは、みんなで考えを意見しました。楽しかったです。」 T:「友達の話を聞いて自分の考えも話すことができました。話し合い、大成功です。」 児童B:「使えるか使えないかを考えました。」 T:「そうだったね。持っていける荷物は5個までだったから、違う活動でも使えるか使えないかを考えることが必要だったね。」
	自分から話すことが苦手な児童もノートに書くことで思考を整理し、発言に備えることができる。

「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題

○ 視覚的な情報を提示し、進行に合わせてそれを移動させることで、話題に関して自分の考えをもったり、目的や見通しをもったりしながら話し合いに参加することができた。

● 視覚的情報の量や質、活用のタイミング等が実態に合っているか、ことばでのやりとりだけで十分理解できているか、意志表出の方法は適当か等、児童の理解特性を考慮した手立てを講じることで、さらに児童が主体的に話し合う姿に繋がると考える。

4歳児 鬼遊び「助け鬼」 「知識及び技能の基礎」身体感覚の育成・10の姿「健康な心と体」
友達と遊ぶ楽しさ、やってみようとする気持ちが、力いっぱい運動する意欲へ
 いわしろさくらこども園 遠藤 知子

I 単元構成の工夫

前単元引っ越し鬼では、おおかみ役とこやぎ役にわかれ思い切り走ることを楽しんだ。本単元は、役割間で助け合いたいという子どもの思いから新たなルールを加え、友達を助けたり助けられたりする面白さを楽しみながら、走って逃げる、追いかける、身をかわす、よける、ガードするなど、自分の体をコントロールしつつ十分に動かすことができる。思いを伝え合いながらみんなで楽しんでいけるように遊びを積み重ね、友達の動きや言葉から、自分もやってみようとする気持ちを引き出し、力を発揮していけるようにする。

児童の実態

本園は自然豊かで園庭は広々としているが、移動には車が欠かせず家庭で歩く経験や運動する機会が少ないと思われ、体力がなく疲れやすい園児が多い。また、少人数学級なので限られた友達関係の中、力関係が明確になりつつあり、自分の思いを強く通そうとする園児もいれば、強い園児に遠慮して自分の気持ちを出せない園児もいる。

単元を通して育成したい子どもの姿

助け鬼のルールにそって動く面白さを感じ、友達を捕まえよう、捕まらないように逃げよう、友達を助けよう、助けられないようにしよう自分なりに動き、体を十分に動かして力を発揮していこうとする姿

「単元構成の工夫」における○成果●課題

- 引っ越し鬼から助け鬼へと友達を助けたいという子どもの思いを大切に、新しいルールを丁寧に導入したことで、遊びのルールをみんなが理解することができ、面白さを感じ意欲が高まっていった。
- みんなでルールを作りながら遊びを積み重ねることで、様々な動きが出てくるようになり、友達の動きや言葉から刺激を受け、「自分もやってみよう」とする意欲につながった。
- 自分の思い通りにしたくてルールを守らない姿が繰り返し見られる園児もいたので、活動の様子に応じて問題提起をしたり、みんなで考える機会を作ったりして、友達との遊びが楽しくなるように関わり方や力関係を調整しながら進めていく必要がある。


単元の計画（総時間 10 時間）

時	場面	学習活動（夢中に学んでいる姿）	資質・能力
前単元 引っ越し鬼	わかる 楽しむ	・おおかみと七ひきのこやぎのお話のイメージをもち、友達や保育教諭とやりとりを楽しむ。 ・おおかみから逃げたり、おおかみになって友達を追いかけたりすることを楽しむ。	・みんなで一緒に活動することを楽しむ。 ・友達と関わりながら、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 ①健康な心と体 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現)
1～2	わかる	保育教諭の話聞いてやってみて、助け鬼のルールを知り、興味をもって参加している。	遊びのルールがわかり面白さを感じる。 ①健康な心と体 ⑨言葉による伝え合い)
3～7	楽しむ	・ルールがわかり、逃げたり、追いかけたり、助けたり、助けられたりすることを楽しむ。 ・友達を助けようと頑張ったり、友達を助けて満足したり、助けられて喜んだりする。	遊びのルールに沿って、体を十分に動かして遊ぶ。 ①健康な心と体 ④道徳性・規範意識の芽生え 友達との関わりを喜び、自分にできそうなことをやってみようとする。 ②自立心③協同性)
	感じる	・友達の動きを見たり、考えを聞いたりして自分もやってみようとする。	問題点について自分なりに考え、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする。 ⑥思考力の芽生え ⑨言葉による伝え合い)
1/5 本時	考える	・遊びの中の問題点に対してどうすればよいのか自分なりに考えて話したり、友達の考えを聞いたりしている。	
8～10	発揮する	・自分なりに動いたり、友達を意識して動いたりし、力いっぱい運動する。	意欲をもって友達と一緒に鬼遊びを楽しむ。 ①健康な心と体③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 助け鬼のルールがわかり、友達と一緒に遊ぶ楽しさや鬼遊びの面白さを感じながら、体を十分に動かして遊ぶ。

学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)	
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1) 前時の活動を思い出し、基本的なルールと前時に問題になったことを確認し、活動への意欲をもつ。</p> <p>おおかみ(鬼)は、こやぎをいっぱい捕まえよう。こやぎは、捕まらないように頑張って逃げよう。勇気を出して友達を助けよう。みんなで決めたルールを守って遊ぼう。</p>
課題解決	<p>2 助け鬼をする。</p> <p>(1) ルールを守って助け鬼をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおかみと七ひきのこやぎを全身で表現する。 ・おおかみ(鬼)は、追いかける、捕まえる、連れていく、守るなどの動きをする。 ・こやぎは、逃げる、助ける、助けを呼ぶなどの動きをする。 <p>T:「〇〇くん逃げるの速いね!」 「いっぱい捕まえてすごい!」 「どうすればいいの?」 「そのコツみんなに教えて。」</p> <p>(2) 問題があれば話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを出す。 ・友達の話聞く。 ・ルールを確認し、新たなルールを作る。 <p>C(鬼): 捕まえたこやぎに抱き着いて、助け出されないようにしている。</p> <p>C(こやぎ): 鬼に抱き着かされているこやぎを助け出す。</p> <p>C(鬼): 「守っていたのに連れていった!」</p> <p>C(こやぎ): 「だって手を伸ばしていたから!」</p> <p>T: 「鬼が守る時はどんなふうに守るといいかな?」</p>
振り返り	<p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>おおかみに捕まらないように頑張って逃げた、友達をいっぱい助けて楽しかったなど、園児が力いっぱい運動して楽しかった気持ちを表したり、友達を助ける、助けられるなどして満足した気持ちを表したりする。</p>

<コーディネートの実際>	
課題設定	<p>2 助け鬼をする。</p> <p>(1) ルールを守って助け鬼をする。</p> <p>保育教諭も遊びに参加し、身をかかわしながら上手に逃げていく園児の動きを周りにいた他の園児に気付かせていった。</p> <p>T:「〇〇くん、頑張っている。」 「逃げるのが上手だね。」</p>
課題解決	<p>逃げるのが上手な園児の動きを認めていったが全体に広げる働きかけが足りなかった。</p>  <p>(2) 問題があれば話し合う。</p> <p>鬼になった子が10数えないでこやぎの家に入り、タッチしようとした。</p> <p>C(こやぎ): 10数えてないよ!</p> <p>C(鬼): 数えたよ! 心の中で。</p> <p>T: それでは聞こえないよ。声に出して数えてね。</p> <p>C(鬼): 1, 2, 3, 4・・・10</p> <p>主体的な遊びを削がないためにみんなでルールの確認はしなかったが、回を重ねていくと、トラブルにつながっていった。</p>

<コーディネートの改善>	
課題設定	<p>2 助け鬼をする。</p> <p>(1) 体を十分に動かしている園児のよさが見られた時には、鬼が変わるタイミングでみんなを集め、よい動きを紹介する。</p> <p>T: 〇〇くん、逃げるのが上手だったね。どうやって動くといいの?</p> <p>C: こうやるんだよ。と体を左右にコントロールしながら鬼をかかわす動きをする。</p> <p>T: 鬼の動きをよく見て右に左によけるんだね。みんなもやってみるとうまく逃げられるかもしれないね。</p>
課題解決	<p>体を十分に動かしている園児を取り上げ、ねらう姿に近づけていけるよう、具体的な言葉や動きで伝えていく。振り返りにおいても、本時のねらいにそって園児の姿を賞賛し意欲を高めていく。</p> <p>(2) みんなで決めたルールを守らない姿が見られた。鬼が変わるタイミングで、みんなでルールの確認をしていく。</p> <p>T: さっき、おおかみは心の中で10数えてこやぎを捕まえようとしたけど、それはいいかな?</p> <p>C: だめ。</p> <p>T: どうしてだめなの?</p> <p>C: 聞こえないからわからない。</p> <p>T: そうだね。10数える時は、相手がわかるように声に出して数えようね。</p> <p>ルールをみんなで確認することで、共有のルールができ、みんなで遊ぶ楽しさにつながっていく。</p>

「コーディネートの工夫」における○成果と●課題

- 保育教諭も遊びの仲間に入り、楽しさに共感したり、一人一人の動きを認めたり励ましたりしたことで、意欲をもつ姿が見られた。
- 体を十分に動かしている動きを、他の園児へ広げる働きかけを行うと、自分もやってみようとする気持ちを持ち、一人一人の動きがよくなっていくと思われる。また、みんなの前で認められることで自信となり、さらに意欲が高まると思われる。
- 力の強い子が自分の思い通りにしようとする姿が見られ、周りの子は遠慮して自分の考えや思いを出せない事も考えられるので、話し合う場面では、どの園児も考えを出せるように力関係を考慮しながら援助していくことが必要である。

IV 研究のまとめ

(1) 成果と課題

1 単元構成の工夫

- 児童生徒に対して単元のゴールを明確に示すことで、毎時間のねらいがしっかり把握できるようになり、子どもの学ぶ必要性が高まった。
 - 他教科と横断的に関連させたり、学校行事等と合わせたりすることで、それぞれの教科で相乗効果が生まれ、単一の教科だけの学びではないと意識する子どもが出てきた。
 - 単元全体を通して、徐々に難易度を上げていくことで意欲が持続し、次時の学習に期待を持つ子どもが増えた。また小中学校の接続と系統性を意識するようになった。
 - 指導事項を精選し、何を身につけさせるのか、授業後の姿をイメージして構成することができた。また、他教科単元でも実践を重ねることができた。
- 見通す、対話する、考える、振り返るなど目指す学びの場面を明確にしながら単元を構成したが、子どもの学習状況に応じて、導入時に前時内容の再確認や導入方法の修正を行い、各時間の学びをスムーズにつなぐ必要がある。
 - 単元全体を通して学ぶ意欲を持続させ夢中になって学ばせるためには、前時までの児童生徒の発言や気づきを生かして本時の課題設定を行うなど、子どもたちの思考の流れに沿った単元を構成する必要がある。
 - 子どもたちが「主体的に学んだ」「楽しく課題を追求した」「学習内容がよくわかった」など夢中になって学んだ実感をもてたのかどうかの客観的な調査を工夫する。

夢中になって学ぶ子どもの育成

2 授業における深い学びのための教師のコーディネート工夫

- ペアやグループ、ロールプレイングや番組制作など学習形態や指導方法を工夫することにより、自分と他者の考えを比較したり、意欲的に学習に取り組んだりすることができた。
 - 発問を精選し、一問一答とならないように工夫することで考えが広がり、新たな課題や発見を見出すなど深い学びにつながった。
 - ICTを有効に活用することで、課題解決の見通しをイメージできたり、自分自身を客観的に捉えることができたり、児童生徒の考えを短時間で共有できたりするなど教育効果が上がった。
 - 子どもの学びの姿をイメージすることで、学習課題の文言や言語活動等を吟味することができた。いくつかのパターンを予想しておくことが深い学びにつながるようになった。
- 一問一答の発問や教師と子ども1対1のやりとりになってしまうことがあり、教師が正解を誘導してしまう場面が見られた。個や全体に問い返すなど子どもたちの思考に寄り添った発問や、思考を広げ深める働きかけの工夫が必要である。
 - 個人差への対応等教師のコーディネートが不十分なところがあった。個のまとめ・適用・振り返り・定着を見取り生かす。
 - 夢中に取り組ませることで時間がかかってしまい、時間をかけるべきところにかけれず、まとめや振り返りの時間を確保できなかった。教師のタイムマネジメントの意識を高めたり、ICTを有効に活用し短時間で考え方を共有したりまとめたりする工夫が必要である。

(2) おわりに

夢中になって学ぶ子どもはどんな姿なのかをイメージしながら本研究に取り組んできた。「没頭している」「自分の意見を積極的に発言している」「他の方法がないか考えている」など子どもによってその状態は様々である。その状態を単一の授業で終わらせるのではなく、持続できるように単元構成や教師のコーディネート工夫を通して実現しようと試みてきた。本冊子には、各指導委員が実践し様々な意見をいただきながらまとめた内容が凝縮している。上記のように成果と課題が見えてきたが、今後も子どもたちの思考に沿った発問の工夫やそのタイミング、指導形態など子どもたちの学びを実現するために本研究をさらに進めていきたいと考える。本研究が指導委員のみならず本市の多くの教職員に共有され、夢中になって学ぶ子どもが増えていくことを心より願う。

(副委員長 渡邊 博樹)

令和3年度二本松市教育委員会指導委員会作成委員

◎委員長 服部英昭 (川崎小校長) ○副委員長 渡邊博樹 (二本松二中教頭)

西屋 純 (安達太良小)	佐藤深鈴 (小浜中)	小野真樹 (油井小)	内谷昌史 (東和小)
佐藤裕美 (小浜小)	佐藤昭英 (安達中)	山口美由紀 (渋川小)	武田 透 (東和中)
阿部真佐子 (杉田小)	渡邊恵美 (二本松一中)	山崎純子 (原瀬小)	大槻瑞也 (二本松北小)
武藤利教 (二本松三中)	塩田咲江 (大平小)	菅野香代子 (二本松南小)	増子美保 (岩代中)
大和田樹 (東和小)	平山真由美 (岳下小)	遠藤知子 (いわしろさくらこども園)	

令和3年度二本松市教育委員会作成委員

丹野 学 (教育長)	安齋憲治 (学校教育課長)	太田孝志 (管理係長)	長澤 潤 (指導係長)
高橋政喜 (指導主事)	鹿目敦子 (指導主事)	紺野宗作 (指導主事)	奥山 満 (指導主事)
糺田祐子 (指導主事)			